

令和3年度 愛媛県がん診療連携協議会

第1回 幹事会

◇ 日時・場所 ◇

令和3年4月22日(木)18時00分～19時30分(Web会議)
発信：四国がんセンター地域医療連携研修センター研修室①

◇ 議題 ◇

開会の挨拶

1. 令和3年度幹事会 自己紹介・名簿確認 (資料1) 2
20200808 役員会および専門部会報告会議事録 (資料2) 3
20201008 幹事会 (メール会議) 議事録 (資料3) 14
2. 令和3年度協議会活動年間スケジュール (資料4) 19
3. 令和4年度協議会活動年間スケジュール案 (資料5) 20

4. 報告事項
 - 1) PDCA 部会 (資料6) 21
 - 2) がん地域連携専門部会 (資料7) 26
 - 3) 緩和ケア専門部会 (資料8) 28
 - 4) がん相談支援専門部会 (資料9) 35
 - 5) がん登録専門部会 (資料10) 62
 - 6) がんの集学的治療専門部会 (資料11) 72
 - 7) がん看護専門部会 (資料12) 76
 - 8) 第4回 AYA 世代対応ネットワーク・妊孕性ネットワークセミナー
演題募集のご案内 (資料13) 80

5. 討議事項

コロナ対応の各施設の取り組みについて

令和3年度4月幹事会名簿

	施設名	役職名	氏名(敬称略)
地域拠点病院	愛媛県立中央病院	副院長	中西 徳彦
		がん治療センター長	森高 智典
		総務医事課 主幹	高石 裕二
	愛媛大学医学部附属病院	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科長	高田 泰次
		腫瘍センター長	薬師神 芳洋
		医学部医事課長	仙波 文彦
	社会福祉法人恩賜財団 済生会今治病院	院長	松野 剛
		医療情報課課長心得	矢野 清久
	市立宇和島病院	乳腺外科科長	岡田 憲三
		医事係長	井上 悌爾
		医事課長補佐	中 一
	医療法人 住友別子病院	がんセンター長	松原 稔
		がんセンター事務担当	藤田 元司
	日本赤十字社 松山赤十字病院	副院長	西崎 隆
		第一外科部長	南 一仁
臨床腫瘍科部長		白石 猛	
がん診療推進係長		大西 麻弓	
推進病院	一般財団法人永頼会 松山市民病院	院長	柚木 茂
		地域医療連携室	三谷 直紀
	社会福祉法人恩賜財団 済生会西条病院	医療福祉センター長	長櫓 巧
		医事課長	宮竹 浩史
	独立行政法人労働者健康安全機構 愛媛労災病院	院長	宮内 文久
		医事課長	内田 賢二
	一般財団法人積善会 十全総合病院	副院長	佐々木 章公
		事務長	荒井 恒治
	公立学校共済組合 四国中央病院	副院長	石川 正志
		事務部長	川上 英二
		医事課長	篠原 孝
	社会医療法人石川記念会 HITO病院	乳腺外科部長	小坂 泰二郎
		地域医療介護連携課主任	遠藤 健介
		病棟師長	青木 由美
		医事課長補佐	中岡 剛志
社会福祉法人恩賜財団 済生会松山病院	副院長	安岡 康夫	
	事務長	林田 哲也	
市立八幡浜総合病院	副院長	武田 肇	
	医事係長	田中 昭光	
専門部会等	PDCA部会	部会長	山下 素弘
	がん地域連携専門部会	部会長	橋根 勝義
	緩和ケア専門部会	部会長	成本 勝広
	がん相談支援専門部会	部会長	灘野 成人
	がん登録専門部会	部会長	寺本 典弘
	がんの集学的治療専門部会	部会長	青儀 健二郎
	がん看護専門部会	部会長	多田 清美
その他	愛媛県	保健福祉部健康衛生局健康増進課長	菅 隆章
	一般社団法人愛媛県医師会	常任理事	窪田 理
事務局	四国がんセンター	幹事長	河村 進
		院長	谷水 正人
		事務部長	浅松 誠治

令和2年度 愛媛県がん診療連携協議会役員会および第1回専門部会報告会 議事録

開催日時：令和2年8月8日（土）13：00～14：30

開催方法：Web会議 四国がんセンターカンファレンス室からの発信

司会進行：協議会幹事長 四国がんセンター 河村 進

出席者：別紙資料1「役員会名簿」

議題

開会の挨拶＜谷水協議会会長＞

がん診療連携協議会も今年で12年目となります。拠点病院、推進病院の皆様をはじめとする関係者の皆様のご尽力により、愛媛県のがん診療の発展に多大な貢献を果たしてきたと思っております。コロナ禍のため、例年なら7月に東京で開催される都道府県がん診療連携協議会が開催されておられませんので、全国の状況をお伝えすることができないこと、また、緩和ケア研修会（PEACE）が延期になっていることなどいくつかの問題も生じておりますが、このコロナ禍の中でも、新しい形態で愛媛県がん診療連携協議会の役員会が開催出来るということは、地の利を乗り越えた、また、時代の進歩と考えられるのではないかと思います。

本日も実りある討論を期待しております。よろしくお願いいたします。

1. 令和2年度役員自己紹介（資料1 P.2 参照）

役員変更 愛媛県立中央病院 西村誠明先生より菅政治先生

松山市民病院 山本祐司先生より柚木茂先生

市立八幡浜総合病院 上村重喜先生より大蔵隆文先生

愛媛県病院薬剤師会会長 田中守先生より浅川隆重先生

（済生会西条病院 薬剤長）

2. 協議事項について

1) 次年度スケジュール案（資料3）

- ・今年度中の開催協議会について

9/29（火）第2回がん看護専門部会

10/8（木）第2回幹事会

12/5（土）第2回専門部会及び報告会

これらの会議についても、現在のコロナ感染症の影響による状況から、おそらくWeb会議形式での開催となる。

・次年度の協議会スケジュールについて

2021年度の役員会・幹事会・専門部会の日程について、事前に4/23におこなわれた令和2年度第1回幹事会で検討していた内容について提示した。

《異議なし》

2) ホームページの改訂について（資料なし）

今年11月に、契約更新による業者の入れ替えがある。

現在のホームページデザインから、全体の見た目に関しては特に大きな変更はないが、各部会等で変更案があるところについては、この業者入れ替えの機会に伴い、作業対応中である。役員の先生方からも何かあればご提案下さい。

3) 組織図（改定案）について（資料2）

PDCA部会と専門部会のツリーの下にある各専門部会において、できるだけ活動を活発にするために、副部会長を、部会長が考えて指名し検討している。それぞれの専門部会で数名ずつとなっており毎年少しずつ変わっていくので、各施設からも専門部会の活動に活発に参加して頂ける先生、担当の方がいらっしゃいましたら、ご連絡をお願いします。

4) 令和元年度役員会議事録（R1/8/3 四国がんセンターにて開催）（資料4）

令和2年度第1回幹事会議事録（R2/4/23 四国がんセンターにて開催）（資料5）
議事録資料について、不明な点や疑義がありましたら、お知らせ下さい。

4) 愛媛県より

保健福祉部医療政策監 河野 様

第3期愛媛県がん対策推進計画中間評価について、ご協力をお願い。

・愛媛県では、平成30年3月に策定した第3期がん対策推進計画による取り組みをおこなっている。計画では、目標の達成状況の把握や進捗管理のために3年を目途に中間評価をおこなうこととしており、今年度が3年目である。

・事務局から全体目標の進捗状況と各分野の個別施策の進捗状況を案としてお示しする。指標は9月中を目途にがん対策推進委員会委員のご意見をお聞きし確定、指標に基づいて中間評価案を作成し改めて委員会のご意見をお聞きし、年度内に中間評価として提示したい。

・個別施策の進捗状況については、拠点病院、推進病院の現況報告書、各病院での取り組み状況、協議会、専門部会の取り組み状況等、を指標としたい

と考えている。協議会、専門部会の皆様には個別施策の案として記載している内容についてご確認頂きご意見を、また、各専門部会の取り組みの状況についてお教え頂きたいので、ご協力をお願いします。

<谷水協議会会長>

愛媛県のがん対策推進委員を担当しているが、中間評価に関して、相談支援部会、緩和ケア部会の領域の調査を既にお願している。部会長より、ほとんどの施設から回答を得て進んでいると聞いているが、再調査等にはご協力をお願いします。この協議会の活動が愛媛県のがん対策推進委員会の活動の中でも大変重要な部分を占めているので、よろしくお願い致します。

5) 各専門部会からの報告

1. PDCA 部会

・四国がんセンターの山下を部会長、青儀・寺本を副部会長として組織し、2年前に活動を始めた。Plan→Do→Check→Act 活動を推進することにより医療体制の改善を図るという部門で、具体的な臨床指標等を共有し、お互いに切磋琢磨していく。

・PDCA 部会では、指標等を利用して皆でアウトカムを共有し、質の向上を目指す活動をおこなうことにより、愛媛県全体の診療体制整備をすすめていく。また、独自の臨床指標をもって皆で共有していけるとよい。

・PDCA 部会は横断的な部門である。各専門部会における PDCA 活動の促進についても働きかけを進めていきたい。

・日常業務の忙しさやマンパワーの問題、関心の度合いなど様々な理由が挙げられるが、PDCA 部会の活動の理解についても共有していきたい。

・相互訪問調査は昨今の事情を鑑み、Web でおこなうことも考えている。

・東京大学の水流研究室でおこなっている臨床指標評価は数年前から毎年愛媛県の各施設にご依頼して参加頂いており、昨年度は11施設のご参加であった。調査では、各施設毎にスコア化されたデータが返ってくる。適合率(理想とする体制に整備されているか、運用が出来ているか)などについて確認をおこなっているが、だんだんと体制整備が出来てスコアが右肩上がりになっていくという理想をもって実施している。総合評価を見ても、愛媛県の診療体制整備は徐々に進んでいることがわかる。水流研究室から提供して頂ける質の改善ツールは愛媛県で共同購入しているが、予算が確保できたので、昨年度から大腸がんに加えて胃がんも追加した。改善ツールの使い方についても、共有改善していきたい。

・今年度のタイムスケジュールについて 6/26 に開催された第1回専門部会で検討をおこなった。具体的な課題として、

1 同意説明文書の改善

2 診療ガイドラインの共有

3 外来での患者の情報共有

等についての改善について活動をすすめ、10月頃に中間報告会を開催する。

- ・12月には、活動報告をもって皆様と情報共有できればよいと考えている。

《質問特になし》

2. がん地域連携専門部会

- ・第1回専門部会は6/24に15病院の参加によって開催した。

・コロナ感染症の対応について 連携室の視点での反省や対策についての情報共有をおこなった。各施設で様々な取り組みをおこなっていたが、FAX紹介のときなどはその状況を書いてもらうという施設が多くあった。あらかじめ地域の病院にアナウンスした、という施設もみられた。オンライン診療については、電話での再診は多くの施設でおこなわれていたが、テレビを使ったオンライン診療はほとんどされていなかった。検討事項として、処方については多くの施設でされていたので、今後感染が拡大してきた場合には、そういったことを連携部門から案内してはどうか。地域連携パスを利用している患者さんに関しては、状態によっては受診間隔について検討したりというような案内をしてもいいのでは。また、各施設でいろいろな取り組みをおこなっているが、統一されたものについては当専門部会で作成するのが良いか、といった意見があった。このような点については今後検討していきたい。

・地域医療ネットワークシステムについて 市立宇和島病院、松山赤十字病院、愛媛大学など、進んで実施している病院さんからは、特に大きな問題はないとの報告であった。四国がんセンターも始めたが、マンパワーの必要性について感じている。今後、多くの施設に導入が進んできた時に、各施設で使用しているシステムがそれぞれ異なっていることは検討課題であるが、現状ではこのまま利用者を広げていく。

・地域連携パスについて 臓器毎に使えるようにはなっているが、使われていない状況も多くみられるので、どのようにすれば普及できるか、について検討した。取り組みの一例として、訪問したときにあわせてパスの説明するなどの工夫が紹介された。昨年、パスの使用についての患者さんおよび医療機関へのアンケートを実施したが、概ね良好という結果が得られたので、今後はパスの使用についても推進していきたい。

- ・かかりつけ医の取り組みについて 各施設の情報を共有し、今後広げていきたい。

《質問特になし》

3. 緩和ケア専門部会

・緩和ケア専門部会は、拠点病院、推進病院に緩和ケア病棟を有する病院が加わるので、全部で17施設の参加がある。7/16に14施設が参加してWeb形式で専門部会

を開催した。

・昨年度、部会で PDCA サイクルについての活動をおこなうという予定をたてた。A グループ；拠点病院、B グループ；推進病院、C グループ；緩和ケア病棟を有する病院、にグループ分けをして A グループでは①チームのカンファレンスの持ち方、②苦痛のスクリーニングからの対象患者の抽出と対応、③ACP の定着への取り組み、B グループでは①院内での緩和ケアチームの認知度向上の取り組み、②緩和ケアチームの質の向上の取り組み、C グループでは①認知症患者への取り組み、のテーマから、当初は各グループでテーマを絞っておこなう予定であったが、なかなか絞りきれなかったため、各施設でそれぞれ活動をおこなうように変更した。今回の専門部会ではその PDCA の取り組みについての中間報告をおこなった。各施設の状況では、ACP については、スクリーニングシートの運用を開始している施設がみられた。緩和ケアチームの認知、質の向上、では、なかなか指標になるものがはっきりしておらず、現在は診療科からの依頼数とか症例数などが目安になるかといった意見があるが、どういったものが指標になるのか部会で検討していただけたらよい。認知症患者についての取り組みでは、ACP を含めた意思決定支援についての取り組みで、他の施設で参考にできることはないかという問いかけには特に意見がなかった。今後については、12月の専門部会で最終報告をおこない、全体で情報共有を図る。

・コロナ禍のためカンファレンス、勉強会等がおこなわれていない状況が続いているが、今後に期待したい。

Q1. PEACE についてはどのようなになるのか。研修医に研修を受けさせなくてはならないと思う。

A1. 開催してはいけないということはなく、各施設で対応して頂くことも可能である。

Q2. 施設独自でやるというのものもあるかもしれないが、やはり愛媛県全体として考えないといけないのではないか。

A2. 独自で研修をやっているところもあるが、カリキュラム自体が変更できないものであったので、Web での開催にすることは認められないようである。

Q3. 来年どのようにしたら良いか、全国で決めてもらってはどうか。

A3. 厚労省のがん対策室の方にもお聞きしたが、厚労省側からメッセージを出して欲しいという各拠点病院から要望がかなり沢山届いていることについては承知している、というようなお返事であった。国のがん対策推進委員会が決めることなので、厚労省からメッセージを出すというのなかなか難しいようであった。ただ、厚労省としては、拠点病院の更新については配慮をするというようなお話であった。私見ではあるが、将来的には、ZOOM 等の Web 会議ではグループワークも出来るので、そういったものを利用するようなカリキュラムが出来るのではないかと思う。現

状では、Web形式が認められないという状況では、しばらくは静観するしかないのではないか。

A4. なんとか、e-learning 等でも良いので、研修医が学べる体制が早く整って欲しいと思う。

Q5. 拠点病院の更新には、PEACE の実施は今年の申請には影響しないという判断でよいのか。

A5. 今年は更新年ではないので、大丈夫です。

4. がん相談支援専門部会

- ・7/9 に 14 病院で専門部会を Web 開催した。
- ・専門部会の活動が活発になってきたので、目的・活動方針を改訂し提案をおこなった。また、実務者代表 2 名を設置、副部長 2 名を追加した。
- ・災害ワーキングを昨年新しく設置した。4/9 に第 2 回の災害連絡シミュレーションをおこなった。これは、4 月に入って人事異動があるため連絡網の再確認としておこなった。4/22 にはコロナの対応状況についても調査をおこなった。結果を報告し今後の活動案の提案やサブリーダーについての議論をおこなった。
- ・一昨年から相談支援部門の四国 4 県でおこなっている地域相談支援フォーラムを 3/7 に予定していたが、コロナの影響で中止となった。今年度は高知の予定であったが、来年に延期となった。来年度は徳島の予定であるが、今後については未定である。
- ・都道府県がん診療連携連絡協議会の相談支援部会は 6/5 にオンライン配信となり、その情報についての共有をおこなった。内容は「がんと共生のあり方に関する検討会」における議論について、小児がん連携病院と小児がん医療連携について、「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」について。
- ・各ワーキンググループからの報告について 〈1〉がん相談員研修ワーキング；コロナの影響で研修が中止になっている。11/14 に QA 研修を国立がん研究センターの協力で愛媛県主催によるオンライン研修でおこなう。国立がんセンターの研修が全てオンライン研修になっているので、情報提供をして、受講するように指導している。〈2〉広報活動ワーキング；11/8 に読書週間に合わせて県立図書館との共同企画として、県立図書館での出張相談を予定している。来年の 3/14 に住友別子病院と新居浜市が共催イベントをおこなうことが決まっており、そこでの出張相談を予定している。〈3〉チェックリストワーキング；PDCA サイクルを回すということで 4 年前からチェックリストを利用して活動している。今年も例年通りチェックリストの作成をおこなって整理と見直しをおこなう。先に愛媛県から報告があったが、愛媛県がん相談支援推進協議会から、第 3 期計画の中間評価にチェックリストを利用できないか、という提案があり、当専門部会が協力するというので、各病院の相談員に

協力依頼をおこなっている。〈4〉サロン担当者交流会ワーキング；一目でわかるサロン開催カレンダーを作成しているが、コロナの影響でサロンが中止になっているので、一覧のみにして中止であるかどうかなどの詳細については各病院に問い合わせをして頂くこととしている。

- ・がんサポートサイトえひめについて 現状の報告および活動の推進について皆さんにお願いしている。(詳細についてはがん登録専門部会から報告。)
- ・愛媛県健康増進課より「若年がん患者在宅療養支援事業」についての紹介があった。今年度は5市町で事業開始、今後拡大予定。
- ・愛媛県産業保健総合支援センターから両立支援活動についての紹介があった。
- ・ハローワークと産保センターによる出張相談(就労支援)が愛媛県内で広がっており、活動している病院から、現状についての報告があった。

《質問特になし》

5. がん登録専門部会

- ・コロナ禍で関係の研修会等が中止になり制限を受けたが、日本がん登録協議会学術集会の1セッションはWeb形式で四国がんセンターから発信して開催し、全国で評価を得た。
- ・専門部会は事前に2回のWeb会議をおこない内容を整理したうえで7/21に開催した。準備を綿密におこなったので短時間でスムーズに会議が終了したが、Web形式に慣れない人には十分にicebreakをとる等をおこなわないと発言しにくい、ということがわかった。今後改善していく。
- ・愛媛県の場合、がん登録の実務にはそれほど影響を受けていないが、国立がん研究センター(東京)などは業務がストップしていたので、各種がん登録データ提出期限にかなり変化があった。専門部会内では、国立がん研究センターから届く提出期間の変更等情報について周知をおこなった。・QI研究の登録については、未定となっている。
- ・国立がん研究センターが提供する認定試験と研修は全てWeb形式となった。これらについても周知をおこなった。
- ・愛媛県の5大がん登録講座などの研修会については、Web形式での開催を検討中。
- ・いろいろな場面でWeb形式が広がったことで、新しい形の研修会が提案されている。例えばWeb上で座談会形式を導入して勉強してはどうか、Moodleを使って過去問を公開する、他組織から提供されるe-learningを、Web会議形式で閲覧して皆で討論したり質問を受け付けながら見る、など。コロナ禍が過ぎても、このような形式で研修会がおこなわれるかもしれない。
- ・院内がん登録の体制は専門部会で把握するという規程に沿って、施設別プロフィールシートを作成し管理を開始する。体制整備が不備の施設には、サポートをおこな

うということも検討している。来年の幹事会では体制を紹介することができる予定である。

- ・例年9月頃に報告される都道府県別・施設別生存率の報告について、4/23の幹事会でもお知らせをしているが、2012年でUICC TMN 7thに変更しているため、今回に限り施設別の2年分まとめて報告することができない。都道府県別の報告書のみとなる。この報告書に対する愛媛県のコメントを専門部会で作成し、皆さんにお知らせする予定である。

- ・前回から、愛媛県内の全ての市町村が、生存／死亡の情報を全ての拠点病院に返してくれることになった。これにより全国の都道府県拠点病院の生存率調査に参加している施設（愛媛県においては全ての施設）がデータに採用される。他県では、把握できていない施設もみられるが、愛媛県では98%程度の生存／死亡が確認できている。

- ・「がん登録で見る愛媛県のがん診療 2020」を4月に刊行した。全県版はもうすぐホームページ上に公開予定。来年版に向けて内容検討予定で、2～3年で、完全に改訂する。

- ・がん登録専門部会のPDCAは、院内がん登録規程を全施設集めて規程の内容についての改善をおこなう。10月か11月にWeb会議（またはメール会議）を開催し、各病院をサポートして規程を整備していく。

- ・がんサポートサイトえひめ 8/7時点で今年度の内容に更新済みで、近日中に、院内がん登録のデータを2018年のデータに更新予定。子宮頸がんに関しても、原稿ができたので、確認ののち公開する。他の項目についても作成者に依頼し更新対応する。サイトアクセス数について、2019年11月に愛媛県の計らいでテレビ放映された年には2,000件を超えたが、現在は1,000件程度なので、広報の必要性を感じている。新たにがんになった方への情報提供を目的としているが、それを必要としている患者さんが1月あたり600～700人あたりはいると思われる。もう少しアクセス数を増やしたい。

Q1. Moodleとは具体的には何か。

A1. 教育用のソフトで、四国がんセンターの教育研修部で対応している。設問はがん登録専門部会で作成し、Moodleへの組み込みを、教育研修部からの指導を受け当専門部会の山下夏美が共同で作成している。

6. がんの集学的治療専門部会

1) 薬薬連携、愛媛県がん診療連携協議会後援会議

- ・10年前におこなった薬薬連携の実態調査について再調査の準備をおこなっている。当院IRBで承認後各施設に調査依頼予定。ご協力をお願いします。

- ・5月に薬薬連携セミナーを実施した。
 - ・薬薬連携システムの構築について 日赤の村上先生を中心にパイロットスタディが進行中。医療者側から薬局に依頼書を提供し服薬指導報告書を返してもらうといった連携をおこなう。パイロットスタディが順調に進めば、愛媛県全体に広げていきたい。国も薬局による薬物療法の副作用報告というのは重要視されているので、それにこたえられるシステムの構築が期待される。
- 2) ゲノム情報を用いたスクリーニングシステム (SCRUM-JAPAN)
- ・愛媛県でもがんゲノム外来、エキスパートパネル会議が利用できる体制が整ってきた。以前よりパラフィンブロックからの遺伝子検査はできるようになっているが、血液検体からも遺伝子検査が出来るような体制が臨床試験で整備されてきている。また、医師主導治験が主ではあるが、FGFR 遺伝子異常を中心に、検査の結果が合致すれば利用できる体制も整ってきている。愛媛県内のどこでも遺伝子治療が利用できるような体制整備を目指している。
- 3) HD 曝露対策、CSTD によるコアリングの調査
- ・HD 曝露対策について スタッフの抗がん剤曝露状況についての調査を2年前から継続している。曝露する場所がわかってきたので、対策として、閉鎖経路を使用する、手袋やガウンなどで自身を守る、などの体制づくりをおこなっていく。また、対策をおこなってもコントロールが難しい場所についてもわかってきたので、そのような場合には、安全な解毒剤を使用できないか、という調査をおこなっている。解毒剤の使い方について再調査中。医療スタッフの安全性を守るため、継続していきたい。
 - ・CSTD コアリングについて (愛媛大学 済川先生、薬師神先生) 今後コアリングの際の異物の内容確認、解析追加、データノイズの修正検討をおこなう。メーカーに情報提供できるか検討中。
- 4) がん就労支援、AYA 世代対応ネットワーク・妊孕性ネットワーク構築
- ・愛媛大学の杉山先生、県立中央病院の石田先生を中心におこなわれており、第3期がん対策推進基本計画にも掲げられているように重要なテーマである。
 - ・情報共有をおこない愛媛県内のどこからでもアプローチできる体制づくりを目指している。サバイバーシップの保持につながる。
 - ・課題について AYA 世代は就労支援、長期フォローアップ。妊孕性温存については、より確実な方法、紹介(アクセス)の方法、情報公開の体制づくり、などが挙げられる。
 - ・現在はコロナで研究会が開催が出来ていないが、できるだけ早く県全体のバックアップできるシステムを構築していきたい。
- 5) 放射線科紹介システムの構築 (愛媛大学 薬師神先生よりご提案)
- ・放射線の診断・治療をスムーズに地域でお互いに紹介し合うようなことが出来ない

か。今後検討をおこなっていく。

Q1. 解毒剤の散布とは、具体的にはどのようにおこなわれるのか

A1. 既に解毒目的で食品などに使用されている人体にほとんど影響のない次亜塩素酸による薬剤を抗がん剤に散布すると無毒なものに変えられる。

Q2. 次亜塩素酸には問題はないのか。

A2. 次亜塩素酸は濃度が問題なので、今回使用しているものは問題のないものである。

7. がん看護専門部会

・愛媛県内におけるがん看護に関わる看護師の資質向上と、がん看護実践レベルの均てん化を図ることを目的として活動している。メンバーは拠点病院、推進病院の看護管理者の方、専門看護師、認定看護師、その他。

・研修を、がん看護実践能力向上を目指した研修、トピックス研修、スポット研修の3つのカテゴリで実施している。2019年度はがん看護実践能力向上研修会、トピックス研修、スポット研修を計画していたが、コロナ感染症の影響でトピックス研修3件のうち2件は中止となり、「がんゲノム医療とがんの遺伝」についてのみ実施した。

・研修計画の参考のため、昨年11月に、県内の病院、訪問看護ステーションさんをはじめとして、ニーズ調査をさせて頂いた。結果、101のご施設からそれぞれの施設の研修の開催状況と必要性（ニーズ）について回答を得ている。開催状況について多かったのは①がんにより人生の最期を迎える本人家族への支援、②抗がん剤の副作用対策、③ストーマケア。ニーズについて高かったのは①本人と家族への支援、②終末期の摂食・嚥下、③高齢者のがん治療について、④終末期の誤嚥性肺炎と口腔ケア、⑤家族・医療者へのグリーフケア、⑥認知症をもつがん患者の意思決定支援。

・ニーズ調査の結果をもとに今年度の研修予定を、能力向上研修、高齢者のがん治療と看護、認知症を持つがん患者の意思決定、ターミナル期の口腔ケアと計画したが、コロナの影響で中止にせざるを得なくなった。しかしながら、ターミナル期の口腔ケアのニーズが非常に高く、かつ昨年度実施できていなかったということから、今年度Web形式で、トピックス研修として開催する。講師は当院の摂食・嚥下認定看護師が、実技を踏まえての講義を実施する。身近な問題から、皆様のお役に立てればと思います。

・第1回目のがん看護専門部会は9/29に予定している。

《質問特になし》

◇全体を通しての質問

Q1. 市民公開講座について、拠点病院の必要要件であると思うが、開催はどうである

うか。予定していたものが中止となって 9 月には出来ようかと思うが、よくわからない。

A1. 難しそうですね。

Q2. 講堂を使えば、それほど密にはならないかと思うが、200 人ぐらいの会場で 50 人ぐらいの参加ならできるかと思うが、どうしたらいいのか。

A2. 例えば、松山市医師会などでは 200 人規模の会場で 3 密を避けて、こういう形ではできるといふ準備はしているが、実際には行われていない。最近もまた拡大してきているので市民向けというのはなかなか難しいのではないかと。しかしながら、市民向けの医療機関からの情報提供の形については、別のことを考えないといけないのではないかと。例えば無観客で講演会をおこない、CATV で流してもらおうとかいう方法はどうか、というのも松山市では意見が出たりもしているが、それはひとつの方法である。何らかの形で、市民の方が置き去りにならないような方法を皆で知恵を絞って考えませんか。

<患者会から> 是非市民への情報提供をお願いしたい。オンラインでウェビナーなどを使った情報提供はよくおこなっている。ご高齢の患者さんが置き去りになってしまう状況はあるが、何かオンラインを使った情報提供ということは考えられないだろうか。そしてそれを愛媛新聞などで採録記事として載せて頂くとか、そういうことができないか、選択肢の一つとしてご検討ください。

閉会の挨拶<谷水協議会会長>

本日もお忙しいところ、ご参加頂きありがとうございました。今回は Web 形式で会議を開催したが、Web 形式でも十分に情報共有はできたのではないかと感じています。拠点病院、推進病院の多大なご尽力および関係者の方々のご協力により、愛媛県のがん対策はよく推進している状況であるのではないかと感じています。全国的にも、会議があればほぼ毎年登壇している。全国のモデルとしても注目されているので、自信をもって協議会の活動を続けていきたい。また新しいことも、知恵を絞って考えれば、愛媛県から発信できるのではないかと改めて感じています。これからもどうぞよろしくお願い致します。

閉会

令和2年度 愛媛県がん診療連携協議会 第2回 幹事会 メール会議 記録

令和2年10月8日の幹事会は新型コロナウイルス感染拡大予防の観点よりメール審議として執りおこなうこととなり、以下の審議事項について、令和2年10月8日より10月14日までの1週間の期間において、幹事会 メールングリストにてメール審議をおこなった。

1. 令和2年度幹事会 名簿確認 (資料1) 2
 20200423 幹事会議事録 (資料2) 4
 20200808 役員会および第1回専門部会報告会議事録 (資料3) . . . 12
2. 協議会活動年間スケジュール (資料4) 23

3. 報告事項
 - 1) PDCA 部会 (資料5) 24
 - 2) がん地域連携専門部会 (資料6) 27
 - 3) 緩和ケア専門部会 (資料7) 29
 - 4) がん相談支援専門部会 (資料8) 33
 - 5) がん登録専門部会 (資料9) 49
 - 6) がんの集学的治療専門部会 (資料10) 54
 - 7) がん看護専門部会 (資料11) 60

4. 討議事項
 - 1) 緩和ケア専門部会
 緩和ケア研修会 PEACE の令和3年度開催について . . . 65
 - 2) 次回専門部会報告会の予定について 66
 2020年12月5日(土) 13:00~14:30 Web会議
 - 3) がんに関する冊子のお知らせ 67

【審議内容】

- ① 全体の内容について
- ② 緩和ケア研修会PEACE令和3年度の開催の方針について、受講者を拠点病院のスタッフ

に限定して開催することを提案する。（資料65ページを参照）

③12/5（土）に専門部会報告会をWeb会議で予定している。第2回目の専門部会は、各々専門部会報告会までに開催する。（資料66ページを参照）

④公益財団法人がん研究振興財団から提供のあった冊子について、各施設に、2部ずつの配布をおこなう。（資料67ページを参照）

【審議結果】

1) 審議事項②緩和ケア研修会PEACE令和3年度の開催の方針について、を除いては、令和2年10月14日までに異議等はなく、令和2年10月14日付で承認。

2) 審議事項②緩和ケア研修会PEACE令和3年度の開催の方針について、については、次のような意見があった。

1. *承認できない

PEACEはがん診療に関わる医療従事者が何処でも受講する権利があると思います。四国がんセンターだけに限定するには利便性で問題があると思います。受講者を拠点病院に限定するなら理由を併記する必要があると思います。

2. *承認できない

拠点病院であればすべて施設内のファシリテーターとかで、実施が可能なのでしょうか。講師側は訪問できるが、受講者側は不可、であるのではないのでしょうか。コストにも関わってくることで、医師だけでも受け入れてもらえる施設が増えることを望みます。

3. *承認する

現時点では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止及び拠点病院の患者の安全確保等の観点から、院内スタッフに限った受講はやむを得ないと考えますが、春先以降、院外からの受入が可能な状況となっていた場合は、推進病院や他病院のスタッフの受講について可能な範囲で御配慮いただきたい。

4. *承認する

協議会の統一見解と同じ判断で結構ですが、地域の均てん化を図る目的で実施する研修会ですので、拠点病院のみならず感染拡大防止対策を実施して地域のスタッフの受講も良いかと思います。また、拠点病院のスタッフ限定とするならば地域の先生方へお断りをする県内で統一した文言の作成をお願いします。

5. *承認する

承認するが、受講者を確保することが難しくなりつつあるため、原則的には限定とした

うえで、最終的には各施設の判断によることとしてはいかがでしょうか。その場合、案内には、“各施設にご相談ください”といった趣旨または各施設別に受入可否に関する注釈が必要となります。

3) 審議事項②緩和ケア研修会PEACE令和3年度の開催の方針について、幹事会メール会議による意見を受けて令和2年度第2回緩和ケア専門部会（令和2年11月28日に開催）に諮り、次のとおり意見徴収をおこなった。

（議題）来年度の緩和ケア研修会PEACEについて、拠点病院の院内スタッフに限定して開催することを提案したところ、推進病院より「推進病院のスタッフも自由に受けられるようにしてほしい。」との希望があった。これについて、ご意見をお願いしたい。

・他県ではWebを利用した研修会を開催していると聞くと、愛媛県としてはどのように開催するかという形を提示して頂けないと、先に進まないという印象がある。

・厚労省のがん対策室に問い合わせたが、PEACE研修は、厚労省のがん対策推進委員会ではなく別の委員会（民間、医療者、行政、有識者などのさまざまな領域から構成されている団体）に承認されている内容であるため、そのカリキュラムに沿った内容以外、例えば開催の形を変えてWebでおこなう研修については、受講修了証の発行が認められない。厚労省からは、現場から意見があがっていることを委員会に出しては頂けるが、どのような判断をされるかということについては回答が出来ない、と聞いている。

従来型のe-learning + 1日実地研修で開催する以外の方法では、現時点では認められない。

・昨年は愛媛県全体で統一してPEACE研修の開催を中止としたが、拠点病院より、院内スタッフの研修医の研修として、開催されないのは困るという意見があり、また、2年間開催されないとすると、拠点病院の更新要件にも関わることもなる。院内のスタッフ同士であれば、日頃から同じ職場内で働いている者同士であるため通常業務と変わりなく、実施が可能なのではないか、という判断から、次年度は各施設で院内スタッフ限定で開催するのはどうか、という提案に至った。その中で、四国がんセンターは院外からも受付できるようにPEACE研修を開催したいという案内をしている。四国がんセンターでの開催は例年3月であり、推進病院のスタッフも研修を受講したいということは勿論のことであるので、近隣の他の拠点病院でも院外スタッフ受講者の受け入れ可能な施設があれば受講ができるように、実施の形態については各拠点病院にお任せするという企画にするしか、方法がないのではないかと。今後の感染拡大や第三波が発生するかもしれないというところでは、自施設での開催についてもあやぶまれるが、現時点での計画としては、院外スタッフ受講者の受け入れ可能な施設では、自主的にして、受け入れをして

PEACE研修会を開催する、というのは、良いのではないだろうか。

・ 次回の愛媛県がん診療連携協議会関連の集まりである専門部会報告会（令和2年12月5日）では、12月に開催される都道府県緩和ケア部会で議論が出ればその報告が可能であると思われるが、開催日が専門部会報告会以降であるため、次回の集まりにおいても同じ内容の報告となる。

・ 意見があれば、メールでお知らせをお願いしたい。

4) 審議事項②緩和ケア研修会PEACE令和3年度の開催の方針について、専門部会報告会（令和2年12月5日に開催）においても、同様に意見徴収をおこなった。

・ 四国がんセンターは例年3月の開催になるため、3月時点で実際にどうなるかは予測不能である（院内ルールでグループワークを伴う研修は開催不可）。他施設の実態をみるとなかなか難しいと推察するが、拠点病院の中で、院外スタッフの受講者を受け入れしてもよいという施設があれば、メール等で連絡して頂きたい。

・ 感染を疑うことで他施設のスタッフの受け入れが問題になるということであれば、（そのような使い方、また病院で許可されるのかわからないが）陰性証明などで対応ができないだろうか。

・ 今後12月18日に開催される都道府県の緩和ケア部会で要望を出していきたい。各拠点病院で院外スタッフ受講者の受け入れが可能かどうかについては、緩和ケア専門部会長にメール等でご連絡をお願いしたい。

→ 後日談：2021/3/13の四国がんセンター主催PEACE研修会は、2021/6以降 医療者 COVID-19ワクチン接種完了後に開催延期となった。（2021/3/13追記）

5) 審議事項②緩和ケア研修会PEACE令和3年度の開催の方針について、令和2年12月28日から令和3年1月7日までの期間、幹事会メーリングリストにて最終確認をおこない、添付の案内に確定した。

<添付> 令和3年度愛媛県緩和ケア研修会PEACEのご案内

☆☆☆ 愛媛県緩和ケア研修会 PEACE のご案内 ☆☆☆

2021年1月吉日

医師会員各位

愛媛県緩和ケア推進センター
愛媛県がん診療連携協議会

謹啓

平素より緩和ケアの普及推進にご尽力を賜り感謝申し上げます。

さて、令和3年度緩和ケア研修会 PEACE の開催についてご案内させていただきます。この研修会は、がん対策推進基本計画に基づくもので、受講修了者（医師）には厚生労働省健康局長名による修了証書が発行され、氏名が公表されます。「B001 22 がん性疼痛緩和指導管理料 200 点」の算定には、本研修修了が要件とされています。

なお、開催指針の改正により、e-learning による事前学習とロールプレイなどを実施する集合研修を組み合わせた形式で実施しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大の状況により開催方法の変更や中止となる場合もあります。つきましては、研修会の開催日程を下記のとおりご案内いたしますので、受講予定の皆様には、e-learning の修了証書を添付のうえ、FAX 送信（本紙裏面）またはメールでお申し込みください（e-learning の受講方法については別紙1をご参照ください）。

なお、参加者は、施設毎に異なりますので、下記をご確認下さい。但し、四国がんセンターでは、県内の他のがん診療連携拠点病院、推進病院のスタッフも対象とします。受講の際には御相談ください。

謹白

開催日程	申し込み期限	申込先（問い合わせ先）
2021年3月13日(土) → 2021/6以降に延期	2021年2月5日(金)	四国がんセンター がん診療連携協議会事務局：武智 祥江 TEL：089-999-1111 FAX：089-999-1100 メール：519-tsupport@mail.hosp.go.jp
2021年4月17日(土)	院内限定開催	住友別子病院 がんセンター事務担当：横井 美由紀 TEL：0897-37-7111 FAX：0897-37-7121 メール：miyuki_yokoi@ni.sbh.gr.jp
2021年5月22日(土)	院内限定開催	済生会今治病院 総合医療支援室：松岡 誠子 TEL:0898-47-2571 FAX:0898-47-2826 メール：s-matsuoka@imabari.saiseikai.or.jp
2021年7月3日(土)	院内限定開催	松山赤十字病院 がん診療推進室：大西 麻弓 TEL：089-926-9630 FAX：089-926-9614 メール：ganshinryo@matsuyama.jrc.or.jp
2021年7月3日(土)	院内限定開催	愛媛大学医学部 総務課企画・広報チーム：友澤 妙 TEL：089-960-5225 FAX：089-960-5131 メール：mekoho@stu.ehime-u.ac.jp
2021年8月7日(土)	院内限定開催	愛媛県立中央病院 事務局総務医事課：山本 浩三 TEL：089-947-1111 FAX：089-943-4136 メール：yamamoto-kouzou@pref.ehime.lg.jp
2021年8月21日(土)	2021年6月18日(金) ※南予地区の方限定	市立宇和島病院 医事課：井上 悌爾 TEL：0895-25-1111 FAX：0895-26-6560 メール：teiji@uwajima-mh.jp
フォローアップ研修会 2021年9月25日(土)	上記研修会修了者のためのフォローアップ研修会です。 2021年7月初旬に案内いたします。なおフォローアップ研修会は「がん性疼痛緩和指導管理料」算定には関係しません。	

- 詳しくは緩和医療学会 PEACE プロジェクト (<http://www.jspm-peace.jp/>) をご参照ください。

令和3年度 年間スケジュール

日時		開催会	内容	場所
4月22日(木)	18:30~20:00	幹事会	(協議事項) ・令和3年度幹事会会員の紹介 ・今年度役員会、専門部会の会員について ・年間スケジュールについて ・各専門部会より連絡事項について ・その他	四国がんセンター
8月7日(土)	10:30~11:30	役員会	(決議事項) ・今年度役員、幹事及び専門部会員について ・年間スケジュールについて ・その他幹事会で協議された事項	四国がんセンター
8月7日(土)	13:00~14:25	専門部会	(連絡・協議事項) ・各専門部会の年次活動方針及び企画について周知および活動に関する審議 ・その他	
8月7日(土)	14:30~15:15	報告会 (役員会・専門部会報告)	・役員会および各専門部会決定事項、活動に関する事項の報告 ・その他連絡事項	
10月7日(木)	18:30~20:00	幹事会	(協議事項) ・各専門部会の活動について ・次年度計画案(各会開催日の決定) ・その他	四国がんセンター
12月4日(土)	13:00~14:25	専門部会	(連絡・協議事項) ・各専門部会の活動に関する審議 ・次年度計画案について ・その他	四国がんセンター
12月4日(土)	14:30~15:15	報告会 (専門部会報告)	・各専門部会活動に関する事項の報告 ・その他連絡事項	

2022年度 がん診療連携協議会年間スケジュール (案)

項目	日程
第19回 日本臨床腫瘍学会学術集会	2022年2月17日(木) - 19日(土)
幹事会候補日	2022年4月7日(木)
	2022年4月14日(木)
	2022年4月21日(木)
第27回 日本緩和医療学会学術大会	2022年7月1日(金) - 3日(日)
役員会、専門部会、報告会候補日	2022年7月23日(土)
	2022年7月30日(土)
	2022年8月6日(土)
第81回 日本癌学会学術総会	2022年9月29日(木) - 10月1日(土)
幹事会候補日	2022年10月6日(木)
	2022年10月13日(木)
専門部会、報告会候補日	2022年11月26日(土)
	2022年12月3日(土)

令和3年度第1回連携協議会幹事会
202/4/22 on WEB

PDCA部会活動報告

1

PDCA活動について

がん診療体制を改善していく環境を整えることは、がん専門病院としての義務である。PDCA(Plan→Do→Check→Act)活動を推進することにより診療体制の充実を図り、県全体の医療提供体制のレベルアップにコミットし、最終的には県内がん患者の予後改善に資することを目指す。

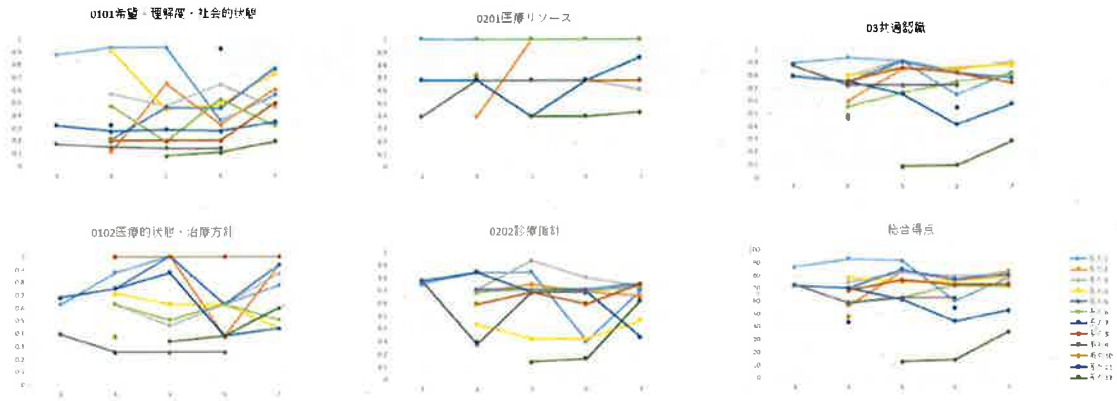
1)具体的な臨床指標を共有し、各施設における診療体制の充実を目指す。

- ・臨床指標:東京大学水流研究室で行っているがん診療体制における質評価指標、
国立がんセンター東研究室:がん登録を用いる質評価指標、NHO臨床指標、等
 - ・県独自/施設独自の臨床指標の設定も目指す。
- 院内において定期的に確認、情報共有する。

2)3年に1度、連携病院間における診療体制の相互訪問調査を実施する。

2

愛媛県各病院の推移 体制の有無



©東京大学 品質・医療社会システム工学寄付講座

3

今年度のPDCA活動の進捗

課題：

- ①同意文書の改善
- ②診療ガイドラインの閲覧
- ③外来での患者の情報共有の改善
- ④自由課題

4

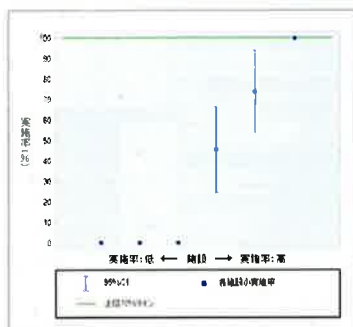
④自由課題

- カンファレンス記録について取り組みたい。11月のシステム更新の時にカンファレンスに特化したツールを今構築している。（愛大）
- 泌尿器科、大腸癌に続く胃領域のダヴィンチのPDCA（住友別子）
- 先天性遺伝学的検査の取り扱いについての運用、結果の保管方法等のフローを作成中。（市立宇和島）
- 効率的な加算取得（四国がん）、新しい指標への取り組みの提案

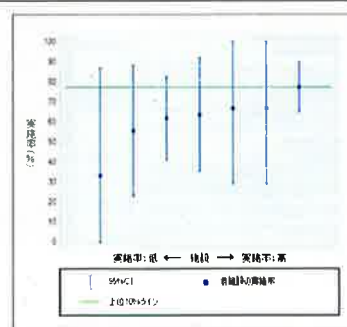
7

東班QI feedback system データ例

QI-st2 内服薬治療T1bに対する免疫染色による腫瘍浸潤評価	
分子	免疫染色による腫瘍浸潤の評価が行われた患者数
分類	胃癌でESD/EMRが行われ浸潤深さが評価された患者数
コメント	2016年より分類をT1bに集約
グループ	全体
数値	{対象患者数} 78 {実施率} 33.3% {達成率} {対象患者数} 19 {実施率} 23.2%



QI-st3 胃癌予後IV期への胃がん化学療法時のHER2検査	
分子	初発化学療法前にHER2テストを実施した患者数
分類	切除不能進行胃癌で初発化学療法が行われた患者数
コメント	切除不能 = 「Stage IVで手術がない」として抽出
グループ	全体
数値	{対象患者数} 100 {実施率} 68% {達成率} {対象患者数} 44 {実施率} 22.2%



多くの項目があるので、今年度から利用を考えていきたい

8

患者体験調査

問15 以下の文章を読んで、その内容が患者さんにどの程度当てはまるかを考え、お答えください
(対象：問11で「R.診断される前に治療が開始されていた」、もしくは、「R.治療なし」と回答した人は除外)

問15-1 「がん治療」を決めるまでの間に、医療スタッフから治療に関する十分な情報を得ることができた

	相解析値		補正值		全国値(補正值)	
	回答数	%	代表数	%	代表数	%
1 そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	19340	4.1%
2 どちらともいえない	2	4.5%	68	5.3%	30428	6.5%
3 ややそう思う	5	11.4%	170	13.1%	59891	12.8%
4 ある程度そう思う	20	45.5%	578	44.7%	202235	43.4%
5 とてもそう思う	15	34.1%	410	31.7%	126505	27.1%
無回答	2	4.5%	68	5.3%	27929	6.0%
合計	44	100.0%	1294	100.0%	466327	100.0%

問15-2 がんの診断から治療開始までの状況を総合的に振り返って、納得いく治療を選択することができた

	相解析値		補正值		全国値(補正值)	
	回答数	%	代表数	%	代表数	%
1 そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	15198	3.3%
2 どちらともいえない	1	2.3%	34	2.6%	25349	5.4%
3 ややそう思う	6	13.6%	204	15.8%	50954	10.9%
4 ある程度そう思う	16	36.4%	444	34.3%	170701	36.6%
5 とてもそう思う	19	43.2%	544	42.0%	173831	37.3%
無回答	2	4.5%	68	5.3%	30292	6.5%
合計	44	100.0%	1294	100.0%	466327	100.0%

愛媛県分は3施設のデータではあるが、住民にわかりやすい形で公開したい

9

今年度のPDCA部会活動

① 臨床指標によるPDCA活動

患者体験調査による評価指標、東班指標からの愛媛県内調査
各施設のPDCA活動・独自指標作成、東班指標・水流班指標の継続

② WEBによる施設間PEER REVIEW

WEBを用いたPEER REVIEW体制構築

③ 各部会のPDCA活動推進

10



1

2020年度活動報告 1. ウェブ会議 (6月24日、11月18日)	
コロナ禍での対応と診療状況	コロナ禍での研修
<ul style="list-style-type: none"> ・面会制限→面会禁止 (リモート面会導入) ・コロナ患者の入院のため、病棟編成を実施 ・コロナ確認事項の間診表作成 <ul style="list-style-type: none"> ・事前FAX・来院者のトリアージ対策・全身麻酔患者の事前検査 ・発熱外来の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・発熱外来の整備が進んだ ・オンライン処方など ・家族面会ができないため、在宅看取りを希望する家族が多くなった →多職種カンファレンスの増加 ・院外関係者の制限があるため、退院前カンファレンスが減少 <p>がん地域連携専門部会や事務局として行えばよかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携バス使用患者は、コロナ禍でどのように診療をすればよいか？ 受診回数を減らしてよいのか (受診間隔の延長) <p>WEBでの退院前カンファレンス等では、個人情報を話し合うため、セキュリティーの担保が課題になる</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>部会のホームページに載せる事も検討する。情報発信の際には、協力依頼 退院前カンファレンスなどの情報共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・院内研修 <ul style="list-style-type: none"> 人数時間の制限を行い開催 eラーニングの活用 ビデオ配信 WEB研修 ・院外研修 <ul style="list-style-type: none"> WEB研修 ハイブリッド会議

2

2020年度活動報告 2. ウェブ会議（6月24日、11月18日）

がん地域連携 クリニカルパス使用推進	地域医療ネットワーク	地域医療ネットワーク 進捗状況	かかりつけ医促進
<ul style="list-style-type: none"> 使用状況は毎月ホームページ上に公開 7施設は取組みの報告なし <p>使用推進のために</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内での理解を得ることが大切であるため、医局訪問や院内掲載や各診療科と連携 ICT訪問で前向きな返事があれば、がんパスの説明も実施 	<ul style="list-style-type: none"> 市立宇和島病院：15000件医療機関に出向き設定し、トラブル対応はSEが対応できる体制が望ましい訪問看護ステーションや薬局にも広げ、カルテを直接見ることができ、安心感にも繋がっている。画像や検査を送らなくてもよいため、逆紹介も楽である 愛媛大学病院：100件「きさいやネット」を参考にし、問題はない 松山赤十字病院：1000件25施設で900人、医療機関は、偏っている 	<ul style="list-style-type: none"> 市立宇和島病院：86施設 愛媛大学病院：35施設 松山市民病院：35施設 松山赤十字病院：26施設 四国がんセンター：7施設 十全総合病院：3施設 <p>他の病院は、参入なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> 愛媛大学病院は、「かかりつけ医」キャンペーンを行っている。毎年、すべての医局に回りちらしを配布し啓発活動を実施 市立宇和島病院は、2年程度かけてかかりつけ医の促進を行い、紹介率・再紹介率とも30%→70%（100%以上の月もある）病院玄関に病院のパンフレットなどを設置 デジタルサイネージの活用 開業医マップ作成し医師に活用を促進

3

2021年度 活動計画

- がん地域連携専門部会として各医療機関との連携を充実させ、コロナ禍を乗り切る
 - がん患者さんがコロナ禍でも安心して医療が受けられる対応
 - WEBでの退院前カンファレンスでのセキュリティを担保した対応
 - セカンドオピニオン、家族面談をリモートで行う際の柔軟な対応
- がん地域連携パスの推進
 - ネットワークシステムの活用も課題
- 地域医療ネットワークの活用と推進
 - コロナが終息してからの課題

4



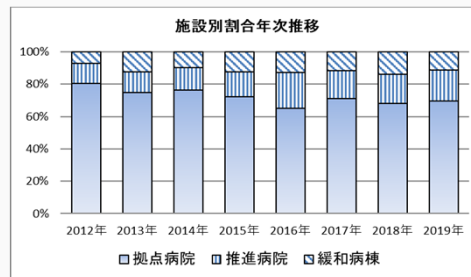
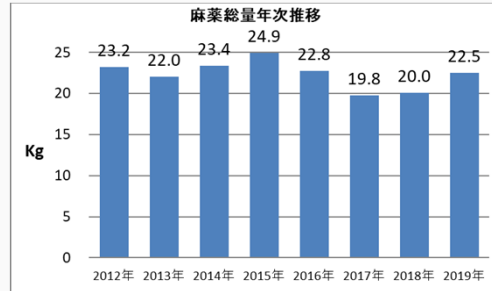
1

<p>緩和ケア専門部会 WEB会議</p> <p>2020年11月28日</p>	<ol style="list-style-type: none">1.愛媛県の医療用麻薬使用調査 2020年度2.各病院のPDCAサイクルの取り組み の最終報告と意見交換3.緩和ケア研修会について
---	--

2

愛媛県医療用麻薬 使用量調査

2020年度



3


参加施設 グループ分け

グループ	病院 (発表施設)	活動計画目標
1グループ 13:07~	①松山赤十字病院	チームのカンファレンスの持ち方
	愛媛大学部附属病院	チームのカンファレンスの持ち方
2グループ 13:17~	②四国がんセンター	ACPの定着への取り組み
	愛媛県立中央病院	ACPの定着への取り組み
	済生会今治病院	ACPの定着への取り組み
3グループ 13:27~	③HITO病院 (欠席)	院内での緩和ケアチームの認知度向上の取り組み
	済生会西条病院	院内での緩和ケアチームの認知度向上の取り組み
	十全総合病院	院内での緩和ケアチームの認知度向上の取り組み
	④松山市民病院	院内での緩和ケアチームの認知度向上の取り組み
5グループ 14:00~	市立宇和島病院	院内での緩和ケアチームの認知度向上の取り組み
	⑤市立八幡浜病院 (欠席)	院内での緩和ケアチームの認知度向上の取り組み
	四国中央病院	院内での緩和ケアチームの認知度向上の取り組み
6グループ 14:10~	愛媛労災病院	院内での緩和ケアチームの認知度向上の取り組み
	⑥松山ベテル病院	認知症患者への取り組み
7グループ 14:00~	西条聖寿会病院	認知症患者への取り組み
	⑦住友別子病院	苦痛のスクリーニングからの対象患者の抽出と対応
8グループ 14:10~	⑧済生会松山病院	緩和ケアチームの質の向上の取り組み

4

<p>四国がんセンター</p> <p>I.計画</p> <p>II.実行</p>	<p>現場レベルでACPの推進を図るにあたり鍵となる“院内認定緩和ケア看護師”を対象に「ACPの実践」に関する研修を行う</p>	
	月日	内容
	10月2日	<p>講義にてACPの理解を深める 「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」の概要と臨床での活用 (講師) 神戸大学医学部付属病院 緩和支援治療科 木澤義之 特命教授</p>
	10月9日、26日	<p>事例検討でACPの進め方を学ぶ<small>(院内認定緩和ケア看護師26名参加)</small> <u>再発症例への関わり</u>をグループで考える 《ねらい》 治療期から「患者が大切にしていること」をともに考え共有することを重ねていくことが、終末期における話し合いにつながることを理解できる</p>
11月16日までに	<p>自部署でACPを実践しケースレポートを作成</p>	

5

<p>四国がんセンター</p> <p>今後に向けて</p>	<p>IV.今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回行った研修は、院内認定緩和ケア看護師自身の学びや実践への自信につながるとともに、自部署におけるリーダーシップを発揮していく機会にもなっており、有効であったと考える 今回行った研修は、今後の院内研修の充実に向けた足がかりとなった 院内研修の充実を図ることでACPの普及が促進され、ACP実践の質も高まることが期待できる
	

6

<p>松山市市民病院</p> <p>方法</p> <p>解決方法・期待される結果</p>	<p>緩和ケアチームの認知度の現状を知る 緩和ケアリンクナース（各病棟）をとおして スタッフに対しアンケート依頼</p> <p>アンケートを基にチーム活動の問題点を表出</p> <p>周知方法をアンケートを基に考察し実施する</p> <p>問題点解決方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアチーム・緩和ケアラウンドについてパンフレットを作成 院内緩和ケアリンクナースに各病棟でパンフレットを用いて説明を行った ・パンフレットに緩和ケアに対し相談・質問ができる窓口として 緩和ケア認定看護師が利用できることを記した <p>期待される結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアチームへのコンサルトや依頼の増加 ・気軽に相談できる窓口の存在が周知されることで、疑問や悩みの軽減
---	--


7

<p>松山ベテル病院</p> <p>方法・進捗状況</p>	<p>「終末期がんと認知症を併せ持つ患者への意思決定支援」</p> <p>終末期がんと認知症を併せ持つ患者の意思決定能力を踏まえた支援のあり方を確立する</p> <p>(方法・進捗状況) 認知症ケアサポートチーム 担当医師1名 看護師4名</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>認知症によって意思決定を行うことが困難な人に対する、医療・介護等の場面における意思決定支援のあり方を検討するために、現在の意思決定にかかるプロセス、具体的にはどのように支援が行われたか、その中での課題となったこと・成功したとは何か等について事例を多く収集する。</p> <p>4月 看護部アクションプランシート立案 5-6月 多職種スタッフへアンケート調査での事例収集 7月-8月 アンケート結果の整理・分析</p> </div> <p>1.意思決定支援に関する情報収集と整理</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>医療者間で情報収集した成功事例・困難事例結果を共有し、緩和ケア病棟における意思決定支援に活用するために必要な知識や方向性を明確にする。</p> <p>9-10月 分析結果から勉強会を開催 10月 院内研究発表会で発表 10月-11月 ツール又はマニュアル作成</p> </div> <p>2.定期的な議論の場と情報収集の評価を行う場の設定</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>緩和ケア病棟における終末期がんと認知症を併せ持つがん患者の意思決定プロセスを共有しながら支援する技術・具体的ケアを確立する</p> <p>11月-12月 完成したツール又はマニュアルに関する勉強会を開催 12月 運用開始</p> </div> <p>3.支援のあり方や具体的対策を提示</p> <p>松山ベテル病院</p>
---	---

8

<p>松山ベテル病院</p> <p>結果</p> <p>今後の課題・活動について</p>	<p>認知症を併せ持つ患者にも約半数以上のスタッフが意思決定支援を実践していると回答。</p> <p>しかし</p> <p>「どのような場面で意思決定支援を行なったか」では認知症の有無で病状・余命・看取りについて明らかな有意差が認められた。</p> <p>認知症を併せもつ患者にも意思決定能力がある前提での支援方法の確立を目指す。</p> <p>スタッフの意識改革</p> <p>代理意思決定支援だけでなく本人への意思決定支援が必要であるとの共通認識が持てる</p>
---	--

9

<p>住友別子病院</p> <p>改善点</p>	<p>苦痛のスクリーニングシートの項目が多いなどの意見もあり、がん看護のリンクナースで内容を見直した。</p> <p style="text-align: center;"></p> <ul style="list-style-type: none">• 項目を減らしA3からA4用紙へ変更し、電子カルテから印刷できるようにした。• 苦痛のスクリーニングシートを、入院サポート部門で入院予定患者にアナムネを聴取する時に渡し、自宅で記入後、入院時に持参するようになった。
---------------------------------	---

10

住友別子病院

今後の課題

- 全対象患者へ渡すことができているか
- 確実に回収できているか
- 回収後、カンファレンスを行っているか
- 看護ケアに活かしたり他部門の介入などが行えているか

↓

効果的な介入ができているか確認していく

生活のしやすさに関する質問票												
氏名	部署	病室	年齢	性別	科	病名	入院日数	入院理由	入院期間	入院科		
記入者：口添々さん、口ごま様、口添様（ ）												
この質問票は患者さんの苦痛を軽減し、支障するたのめものです。お答えいただきたいことをご記入のうえに提出していただきます。												
項目	全くない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	回答への 状況
しびれ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	あり/なし
手足の痺れ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	あり/なし
寝た時/寝起き時	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	あり/なし
排便時	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	あり/なし
歩行（立ちあがり歩行）	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	あり/なし
不安	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	あり/なし
不安感	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	あり/なし
痛み	なし	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	あり/なし
倦怠	なし	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	あり/なし
睡眠	よく眠れる	時々眠れるが眠れない	眠れない	あり/なし								
口の中がみずかた	なし	あるが程度軽	重度	あり/なし								
食事の量	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	あり/なし

11

済生会松山病院

PDCAサイクルの取り組み 最終報告 2020.11.28

テーマ：緩和ケアチームの質の向上

方法：緩和ケアラウンド対象患者の抽出方法を検討

報告：日本緩和医療学会「2020年度緩和ケアチームセルフチェックプログラム」に参加した。当院緩和ケアチームの弱いところを抽出し、改善を行った。
・現場のスタッフ（他職種）がスクリーニング出来るように、「生活のしやすさに関する質問票」改訂、院内ポケットマニュアルに記載予定
・「チームへの依頼」→「ラウンド記録」→「振り返りの記録」を1つのテンプレートで一元化

ラウンド対象患者の抽出方法

誰が：**チームのコアメンバー**
(認定看護師、薬剤師)

対象：**医療用麻薬使用患者**
(がん性疼痛に対して)

→

誰が：**現場のスタッフ**
(外来・病棟看護師、薬剤師、
管理栄養士、リハビリetc...)

対象：**すべてのがん患者**

12

今後の予定

各施設での取り組みの結果を参考にして、今後も緩和ケアの活動におけるP D C Aサイクルを継続する。

日々の活動を通して、緩和ケアの質の向上を目指す

緩和ケア研修会は、各拠点病院において、参加者を限定して開催する方向で検討

愛媛県がん診療連携協議会 相談支援部会 幹事会報告

1.がん相談支援専門部会議事録(2020年11月26日)(資料1)

- 1)各4WGからの報告。
- 2)災害時連絡シミュレーション報告。
- 3)がんサポートサイトの広報と活用。

2.愛媛県立図書館出張相談報告(2020年11月8日)(資料2)

- 4 病院 5 名が参加。

3. QA 研修(相談対応の質保証研修)報告(2020年11月14日)(資料5)

受講者 33 名(県内 18 名参加、県外 15 名参加)

4.健康フェスタ 2020 in 新居浜(2021年3月14日開催予定)の中止(資料4)

5.チェックリストWG 報告(2021年4月9日)(資料5)

- 1)がん相談支援センター活動のPDCAサイクルを確保するために、チェックリストを作成し、業務内容のチェックを行っている。(5年前より)
- 2)毎年、チェックリストに記入し、課題の抽出を行っている。チェックリストの見直しも行っている。
- 3)抽出した課題の改善に向けて取り組んでいる。

6.今年度の予定 :原則、オンラインによる活動。

1)災害WG

- ①5月に災害時連絡シミュレーションの実施
- ②前期:課題整理と検討
 - ・がん情報サービスから依頼が入った際の被災地周辺地域受入体制調査フォーマットへの記載と情報共有する際の院内・地域内確認ルートの確認
 - ・県拠点病院が被災した場合の情報収集の方法
- ③後期:災害発生時における専門部会活動の中止・延期の決定に関わる取り決めについての検討

2)広報WG

がんサポートブックえひめの内容の見直しを中心に協議し、年度末に改訂版原稿を完成予定
現在の在庫が1000部ほどあり、改訂版発行は2022年度の予定
出張相談会はコロナのため見送り

3)がん相談員研修WG

- ①後期(秋～冬)にオンライン研修会を1回開催(予定)
テーマは、相談対応の質向上研修(QA)等を検討予定(オンラインWG)
- ②国がん主催がん相談員指導者研修(オンライン)6/29・30 11/4・5 への参加
愛媛県立中央病院(1名看護師)と松山赤十字病院(1名看護師)が参加予定
- ③国がん主催情報支援トライアル研修会(オンライン)8/31・9/1
四国ブロックファシリテーターと参加者の協力

令和2年度第2回愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会

(Web 会議) 議事録

令和2年11月26日(木) 15:00~16:10

出席者 (37名)	愛媛大学医学部附属病院	塩見、大野、武市 六角	愛媛県立中央病院	村上、渋谷、上野、 季羽、石山、小笠 原、井上
	済生会今治病院	松岡、池田、西部	松山赤十字病院	佐伯、高須賀
	住友別子病院	和田、山地、高橋	市立宇和島病院	毛利、川中、沼田
	松山市民病院	三谷	四国中央病院	古川、高木
	HITO 病院	守屋	十全総合病院	向井
	済生会西条病院	大谷	済生会松山病院	平岡、藤原
	市立八幡浜総合病院	高橋	四国がんセンター	灘野(部会長) 羽藤(副部会長) 藤山(副部会長) 福島、関木
	愛媛労災病院	田中		
事務局	四国がんセンター	安宅(事務担当)		

挨拶

がん相談支援専門部会 部会長 灘野成人

I. 報告・協議事項

1. ホームページ改定 福島美幸(四国がんセンター)

業者交代による内容の見直しを行い、年度計画2年分が見られるようになっている。
活動実績は議事録と報告書(ワーキングの活動と研修会の活動を記録)の2つに分けた。
愛媛県のサポート情報を3つ(がんサポートブックえひめ、がんサポートサイトえひめ、
がん相談支援センター)に分けてまとめている。(★12月1日に正式に公開予定)
ホームページ URL は、<https://ecch.jp/>

2. 各ワーキングからの報告

1) 相談員研修 WG WG リーダー 篠原瞳(四国がんセンター) 代理報告福島

①令和2年11月14日(土) オンライン QA 研修の開催報告

- ・受講者33名【県内18名(拠点15名、推進3名)、県外15名】の参加
- ・県外は青森、岩手、新潟、岐阜、東京、神奈川、愛知、大阪、香川、高知、福岡
- ・県内の参加者は看護師が少なく、MSWの出席が多かったが、県外は逆でMSWの方が

少し少なかった。

- ・オンライン研修会開催の準備については、受講者向け、運営スタッフ向けの準備内容の紹介。準備において工夫した点は、申込みフォームを Google フォームで作成し、URL と QR コードをポスターに貼り付ける為、名簿作成が自動で可能である。そして、1 グループ 4～5 名の参加者とファシリテーター1 名と小規模なグループとした。資料は郵送を避け、メール配信とした。
- ・運営側の感想：
 - ・ファシリテーターが QA 研修に慣れており、安定した研修であった。
 - ・県を跨いで協力体制をとることで新たな研修の開催が出来るのではないかと。
 - ・開催会場に ZOOM 操作等、運営側に必要な人材や人員もオンライン研修には重要である。
 - ・受講者の感想としては、初めてのオンライン研修ではあったが満足出来た。看護師、MSW それぞれの視点があり、とても勉強になった。

②来年度の研修について

- ・おそらく集合研修は難しく、オンライン研修を開催していくのではないかと思います。
- ・拠点病院の整備指針が出てきている。県単位の継続研修も是非、受講して頂きたい。

2) 広報活動 WG WG リーダー 大西明子（四国がんセンター）代理報告福島

①令和 2 年 11 月 8 日（日）愛媛県立図書館 出張相談会報告

相談支援センターの講義を予定し、相談の予約も入っていたが急遽キャンセルとなり、当日の相談者はいなかった。協力スタッフの方に図書館の様子を一緒に見て頂いた。

近く、報告書をホームページにアップする。

②令和 3 年 3 月 14 日（日）新居浜市でのイベントにて出張相談予定

住友別子病院：新居浜市からも出来るだけ開催したいと言われている為、状況を見ながら開催の方向で進めたい。来年 1 月に開催可否を最終決定する。

③がんサポートブックえひめについて

- ・（新）協議会のホームページ改定に伴うお知らせ
各病院でリンク先の変更をお願いしたい。
15 ページに掲載の「暖だん」の開館日の修正を各施設で修正をお願いしたい。
- ・がんサポートブックの修正アンケート実施予定（★12 月メール配信予定）
アンケートの締切は来年 1 月末を予定している。協力をお願いしたい。
- ・web アンケートの返答は全くなく廃止を検討している。参考までに、がんサポートブック巻末のハガキの返送も最近はない。→特に異論なし。

④来年度の活動について

来年度は出張活動のような大きな活動は難しいと思われる。よって、がんサポートブックえひめの改訂作業に力を注ぎたいと考えている。

3) チェックリスト WG WG リーダー 松岡誠子 (済生会今治病院)

①チェックリスト項目の修正ポイント

- ・新整備指針の項目、国がんの示すチェックリスト S 評価と A 評価を主に追加。
- ・既存の項目を統合して整理して項目数は 34 項目から 28 項目に減らした。
- ・今までは“していること”に対しての是非を問うものが多かったが、新項目はバージョンを上げて、実際の対応状況などの具体的に問うような内容に変更している。
- ・チェック項目の結果は厳しいものになるかもしれないが、取り組むべき課題を明確化して相談の質を上げることを目的とする。このチェックリストを行い、つけにくい点などの意見を出していただき、来年度のチェックリストに活かしたい。

上記項目の修正案について、異論なし。

②今後の予定

- ・各病院でのチェックリストの実施
提出期限：令和 2 年 12 月 28 日（月）期限厳守
- ・WG で各病院の結果を集計、まとめ
令和 3 年 2 月までに集計 課題の抽出と来年度の活動の検討
年度末に結果・報告書の配信

4) 災害 WG WG リーダー 関木裕美 (四国がんセンター)

①災害 WG の取り組み状況報告

1) 定期的な災害時連絡シミュレーションの実施

今年 4 月に実施。がん情報サービスの被災地周辺地域受入体制調査フォーマットを使用して患者の窓口であるがん相談支援センターの状況、他院からの受け入れ窓口などになる地域連携室の報告を頂いている。2 回目だった為、スムーズな回答であった。今後も年一回年度初めの 5 月頃にシミュレーションを行いたい。協力をお願いしたい。

2) 災害時の情報共有について

●災害時の状況調査.

WG メンバーで愛媛県内に警戒レベル 4 相当の災害が発生した際の情報共有の方法を検討。方法は ①災害時の状況調査を四国がんセンターより相談支援専門部会 ML にて依頼 ②各病院で質問票返信フォームに記入の上、返信。③四

国がんセンターでそれを一覧表にして相談支援専門部会 ML で情報を共有。

●がん患者さんの受け入れ体制調査について

こちらはがん情報サービスのホームページ内のがん診療連携拠点病院向け災害時情報ページの確認を。大規模災害時にごがん患者の受け入れ状況の把握、情報共有の依頼が入る。平成 28 年熊本地震、平成 30 年大阪北部の地震でも都道府県の拠点病院を中心に情報を収集し、ホームページ上で情報を共有。

●課題：

- ・フォーマット内への記載と情報を共有する際の院内、地域内ルートの確認。
- ・情報共有は県拠点病院が中心となって行うようになるだろうが、県拠点病院が被災した場合、どこが情報を共有するか
- ・今後、課題を明確にして県内のがん相談支援センター内の情報共有を確実に行う方法を整備する。

②愛媛新型コロナウイルス感染症に関わる診療状況及び相談対応等の情報共有について

- ・4月と9月の2回、がん情報サービスの様式を使用してメールで情報を共有。
- ・新型コロナウイルスの状況は変化している為、がん情報サービスの動きに応じて情報を共有したい。その際は協力をお願いしたい。

II.その他

1. がんサポートサイトえひめについて 寺本典弘（四国がんセンター）

① データ更新

- ・子宮頸がんが出来ました。
- ・コロナ情報を追加した。
- ・院内がん登録由来データを 2018 年のものに更新した。

② 充実

- ・膵臓：日赤から原稿を受領。四国がんセンターWG で内容を検討中。
- ・前立腺：愛大に原稿を依頼済み。
- ・「痛みを和らげる」：診断した時からの緩和医療の情報も必要ということで原稿を準備中である。おれんじの会や新聞社の協力も得て充実させていく。
- ・来年 6 月にデータの更新を依頼する予定。

2. 第 15 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会報告

11 月 27 日（金）にオンライン会議を開催。（★後日メール報告）

3. 各施設からの周知事項

●ハローワークの出張相談における各施設の状況報告

- ・松山市民病院：今年 7 月から開始。7、8 月は相談がなかった。その後、場所を

変更してから2名が相談に来られた。

- 住友別子病院：8月末まで1、2件／日の相談があったが、コロナの影響もあってか10月になると相談件数は減少してきた。直接、ハローワークに相談に行くケースもあるようだ。
- 愛媛労災病院：今までの相談者は2名。相談回数は9件（修正）。場所が奥まった所にある為、掲示を工夫したが相談件数増加には繋がっていない。

議事録担当：愛媛労災病院（次回は、済生会松山病院）

図書館で”がん”を学ぼう！2020

がん相談支援センター広報活動・がん出張相談実施報告書

1. 日時 令和2年11月8日(日) 13時～16時
2. 場所 愛媛県立図書館 5階多目的ホール
3. 内容 講義 「がん治療はお金がかかる?!相談窓口にきいてみよう」
「”暖だん”ってどんなところ」
「子どもにがんを伝える本」
愛媛県がん診療連携拠点病院 がん相談支援センターによる個別相談会
4. 参加

松山赤十字病院	1名
愛媛県立中央病院	2名
済生会松山病院	1名
四国がんセンター	1名

5. 活動報告

毎年実施している愛媛県立図書館と患者家族総合支援センター暖だんの協働企画に、参加協力という形で、愛媛県がん診療連携協議会がん相談支援専門部会広報ワーキングとして参加した。

四国がんセンター相談員より「がん治療はお金がかかる?!相談窓口にきいてみよう」というテーマで、医療費の現状や活用できる制度などについて講義をした。

その中で、がん相談支援センターについて紹介し、愛媛県内のがん相談支援センターの場所や利用方法について広報した。

講義のあと、がん相談支援センター相談員による個別相談会を予定していたが、残念ながら相談者は0人だった。

コロナ禍での出張相談となり、気軽にご来場、ご相談いただくのは時期的に難しかった面もあるが、相談できる場所があることを情報発信することはできた。

今後も感染症流行の状況をみながらの活動にはなるが、がん相談支援センターの情報発信は引き続き行い、一般市民の方に広く知っていただけるよう広報活動を継続していきたい。

令和2年11月9日

2020年度愛媛県がん相談員研修会オンライン QA 研修 「相談対応の質保証(QA: Quality Assurance)を学ぶ」 活動実施報告書

記載者: 松岡誠子

I. 企画概要

1. 企画名

2020年度愛媛県がん相談員研修会
オンライン QA 研修「相談対応の質保証(QA: Quality Assurance)を学ぶ」

2. 主催

愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会 がん相談員研修ワーキング

3. 目的

- ・がん相談支援センターにおける PDCA サイクル確保の一環として、相談対応の質保証と向上のための観点を学ぶ。
- ・また、これらの学びを施設で活用し、施設の相談対応の質向上に還元できる人材の育成を目的とする。

4. 講師

国立がん研究センター がん対情報センター 八巻知香子先生

5. 協力(広報、ファシリテーター)

香川県がん診療連携協議会、高知がん診療連携協議会、徳島県がん診療連携協議会

6. 開催日時

2020年11月14日(土)13:00~17:00

7. 開催方法

オンライン研修(Zoom)
(発信ホスト会場)四国がんセンター 患者・家族総合支援センター3階
愛媛県松山市南梅本町甲160番地 (TEL)089-999-1209
(講師リモート会場)国立がん研究センター がん対策情報センター

8. 受講対象者(受講定員30名、受講者33名、欠席1名)

- ・愛媛県内を中心に全国の拠点病院・がん診療連携推進病院のがん相談支援センター相談員
- ・がん相談に従事する相談員(医師、看護師、MSW、心理士等)

【受講者33名の内訳】

(施設別)県内18名(拠点病院15名、推進病院3名)、県外15名
(職種別)看護師14名(県内6名、県外8名)、MSW18名(県内12名、県外6名)、他1名(県外1名)

9. 参加条件

- ・ZOOMを用いたオンライン研修に参加でき、1人1台のデバイス機器(PC、タブレット)が用意できる方
- ・安定したネットワーク接続環境が準備できる方
(受付後案内)
- ・研修に集中でき、グループディスカッションの参加に支障(顔や表情が映らない、発言の際の音声がかた聞こえない等)がないような静かな個室などの環境を準備するなど、オンライン受講における事前オリエンテーションを案内した。

10. 内容

〈学習目標〉

- ① がん相談対応評価表(以下「評価表」)の活用方法、目的、意義、ルールを理解する
- ② グループワークでは互いの意見を尊重し合い積極的に参加する
- ③ グループワークで得た学びを自己の相談対応の改善に適用する
- ④ 評価表を活用したディスカッションにおけるルールを遵守することの重要性を学ぶ
- ⑤ がん相談支援の質の管理と維持に必要な課題を説明する
- ⑥ 施設や地域で相談対応の質の向上を図るための課題を具体的に討議し、今後の取り組みを考える

- 13:00～13:12(12)オリエンテーション(1) 開会挨拶
愛媛県がん診療連携協議会がん相談支援専門部会長
四国がんセンター 患者・家族総合支援センター長 灘野成人氏
- 13:14～13:45(30) 講義①がん相談対応評価表:目的・意義・ルールを理解する
- 13:45～13:50(5) オリエンテーション(2) 自己紹介、アイスブレイク、GWの役割分担について
- 15:50～14:10(20)自己紹介:氏名、参加県、所属、職種、コロナ禍で最近始めたこと、幸せを感じたこと&私の「いいね!ポーズ」を紹介
アイスブレイク:各グループで「いいね!ポーズ」賞を決定する。(本日のディスカッションで“いいな”とか“なるほど”と思うポイントがあった際に「いいね!ポーズ」を使う)
- 14:10～15:25(75) グループディスカッション① 評価表を利用した意見交換
- 15:25～15:50(25) 全体共有①
- 15:50～16:00(10) 休憩
- 16:00～16:25(25) 講義②「がん相談支援の質」を考える～組織における品質管理と品質保証～
- 16:25～16:40(15) グループディスカッション②
自施設や地域で取り組める内容についての意見交換
- 16:40～16:53(13) 全体共有②・質疑応答
- 16:53～17:00(8) アンケート記入案内・挨拶・事務連絡等

11. 事前課題

本研修では、受講者が事前課題に取り組む必要がある。事前課題は、受講予定者宛に事前事務連絡と合わせて連絡する。取り扱い事例:3 事前にメールで案内した。

12. 事前・接続テスト

本研修では、事前に別途案内し、11月5日の11時～と11時15分～、13時30分～と15時45分、追加で15時30分～と16時30分～行い、23名は事前に実施できた。残り11名は研修当日の11時～と11時15分～に開催した。休日のため自宅からの受講者が多かったためやむをえなかったが、当日の接続テストのZoomミーティングは当日研修事前打ち合わせのZoomミーティングとは別立ての案内の方がメインホストの混乱なくすすむことが分かった。

13. Ⅲ群登録

本研修は、国立がん研究センターが実施する「認定がん専門相談員制度」におけるⅢ群研修の単位認定申請を行い承認された。

14. 事務局スタッフ(6名)

メイン会場:愛媛大学医学部附属病院 塩見美幸、済生会今治病院 松岡誠子
四国がんセンター 福島美幸、石川宏昭(情報部)、安宅麻美弥(事務局事務)

リモート:香川大学医学部附属病院 三木晃子

Ⅱ. ワーキングの打ち合わせ・振り返り会

打ち合わせ会(11:00～11:46) 振り返り会(17:10～17:45)

1. 研修全体と運営について

- ・参加者やファシリテーターが研修に慣れており安定した研修であった。
- ・これまでの四国ブロックの取り組みの蓄積が実ったことを実感できる研修であった。
- ・事務局・運営についても安定した運営であった。
- ・運営面でもこれまでの四国ブロックの取り組み蓄積が活かされた。今後も県をまたいで協力体制をとる事で新たな研修が開催できるのではないかな。
- ・ZOOMの操作が会の運営・進行には重要になる。
- ・必要な事務局のスタッフ数や役割分担など、今回の研修の経験を次回の研修に活かすことができたらよい。
- ・研修開催時まで、欠席者の確認ができなかった。(開始直前にメールで連絡が来ていたが確認できていなかった)
- ・ネットワークの脱落者がいなかったのが良かった。

2. 講義について

打ち合わせ会で、全体の進行や講義のポイントについて、八巻先生から説明していただいた。

3. グループワークについて

【打ち合わせ会】

- ・後半しっかり議論する。(12~14を議論してニーズにつなげたほうがより深まる)
- ・ディスカッションに入るタイミングや残り時間などをブロードキャスト機能を使用し、ブレイクアウトルームにアナウンスすると進行の開きが防げる。
- ・批判に終始せず、良くできた部分や代替案(こうすればもっとうまくいくのではないかな)などの意見が出ればよい。

【振り返り】

- ・休憩は殆どのグループがとらなかった。
- ・全体的に事例のニーズを深め多面的な見方が出来ていた。
- ・最初にケースの印象を確認すればよかった。
- ・メンバーの反応が無いような気がして、焦りもあったが、「いいねポーズ」が役に立った。
- ・Web研修でのファシリに慣れていないので、自分の言葉が多くなってしまった。
- ・同じ事例を2回すると、前回と違った気づきがあり新しい学びがあった。
- ・メンバーの反応を確認するのが難しかった。
- ・ファシリが途中抜ける事態もあったが、ファシリサポーターがしっかりと役割を果たされていた。
- ・「いいね ポーズ」を利用する余裕が無かった。
- ・時間管理が難しく最後までできなかったが、ニーズや主訴は深めることができた。
- ・評価表を進める事が気になり全体の雰囲気のみたり意見を共有するなどの余裕がなかった。
- ・ファシリ自身の学びにもなった。
- ・研修経験者の意見が進行に役立った。
- ・サポートメンバー(武田さん・川中さん)に助けられる事(雰囲気作り・時間管理・言葉かけなど)が多かった。
- ・初めて使用する人も多かったので、評価表の記入の仕方を皆で話し合った。
- ・他のグループの様子が分からないので不安であったが、事務局スタッフが巡回してくれるので心強かった。
- ・ファシリが事例を読み込んで臨まれていて、参加者と共にやり取りして落ち着いてファシリテーションができていた。

Ⅲ. アンケート調査集計 ※詳細は添付資料参照(国立がん研究センターのアンケート)

1. 受講者背景 ※より抜粋

- ・病院の種類の内訳は、総合病院が56.3%、がん専門病院と大学病院が37.6%をしめた。(資料-I)
- ・主たる資格別(複数回答)でみると、59%が社会福祉士、37%が看護職(認定看護師・看護師・保健師)、その他(臨床心理士・精神保健福祉士)が16%であった。(資料-I)
- ・がん相談経験年数は、5年未満が19名、5年以上20年未満が12名であり、研修参加の動機(複数回答)は、「職務上必要と感じた」72%「自己研鑽」72%が上位を占めた。(資料-I)
- ・QA研修に初めての参加者が65.6%であった。また、オンライン研修が初めての参加者が31.3%、オンライン会議が初めての参加者が37.5%という結果であったが「Ⅲオンライン研修全般について」の項では、オンライン研修の利点を評価する回答が多く、今後もオンライン研修に積極的に関わろうという意見も多かった。(資料-II・Ⅲ)

2. 研修目的の理解・満足度 ※より抜粋

- ・オンライン研修については「満足している」が96.9%と満足度が高く、「今後のオンライン研修への参加希望」の問いでは「参加したい」が90.6%、「オンライン研修を人に勧めるか」の問いには「勧める」が93.8%を占める結果であった。(資料-X)
- ・受講前と受講後の意識の変化をみる質問(資料-IV・V 資料-VIII・IX)では受講後に質保証についての取り組みや向上の為の観点について、今後具体的に取り組みを検討したいとの回答の割合が増えてお

り、参加者の置かれている体制など職務環境による違いはあるものの、参加者に研修目的は理解されていたと考える。

3. 受講者からの意見（※より抜粋&受講者から聞き取り）

【良く分かった・印象に残った点】

- ・モニタリングによる気づきが大きい。内規が大切。相談対応の質評価の必要性。
- ・相談員としての業務、あるべき姿を再確認できた。
- ・グループワークで自分と違う視点を知る事ができ視野が広がった。
- ・相談対応評価表の項目の意味は理解できた。良い事も含めた振り返りに活用できる。
- ・振り返りが大事。
- ・相談者の言葉を整理しどう返していくか、感情や現状をどうアセスメントしていくかを意識出来るようになりたいと感じた。
- ・相談対応の質保証は、個人の問題でなく、組織として取り組む必要性がある事が理解できた。
- ・がん相談支援センターの目指すものが明確化され相談対応の質保証の取り組みについて学べた。
- ・自宅にいながら全国の方と話ができオンラインならではの研修のメリット・質の良さを実感した。
- ・WEBでもグループワークが出来ることに驚きを感じた。

【理解しにくかった点】

- ・質疑応答の時間が無かった。
- ・事前課題の評価表を付けることが難しかった。1か0かで評価するのが難しい。
- ・医療の事をどこまで話すのがいいのか難しさがある。
- ・免責について相談者に何をどれくらい伝えたらよいか。

【全体を通して】

- ・ファシリテーターが初めにメンバーのQA研修受講回数を伝えてくれたのでグループの状況把握が出来て良かった。
- ・初めてのZOOM研修であったが、事前のメールや添付資料が分かりやすく、問題なく最後まで受講する事ができた。
- ・ずっと画面を見ているので目が疲れて最後の方が画面を見るのが辛かった。
- ・定期的なQA研修の参加が大切。
- ・ファシリテーターが全員の意見が聞けるように話しやすい雰囲気を作ってくれて大変よかった。
- ・「参加してよかった」と思える研修内容であった。
- ・今回の気づきを大事にして施設内の振り返りも大事にしたい。
- ・自施設以外の他職種との意見交換もできて面白かった。
- ・数回受講する事で必要性や内容理解につながっていることを実感できます。継続できると助かります。
- ・研修前の事前接続テストは良かったが、予定時間ちょうどにつながらず不安になった。「接続に時間がかかる事があります。予定時間0分過ぎても繋がらない場合には連絡してください」と案内があると安心できた。

4. その他（※より抜粋&受講者から聞き取り）

- ・参加者の意見からは、事前オリエンテーションや、わかりやすい事前資料の配布、安心を促すアナウンスなどが重要でWEB研修に慣れない参加者の緊張感が緩和されることがわかる。
- ・ファシリテーターの声かけや促しは、参加者の緊張感を緩和し、発言しやすい雰囲気作りに重要。

IV. 今後の展望

今年度は新型コロナウイルスの影響で愛媛県がん相談員研修を1回しか開催できなかった。コロナの感染状況によるが、WEB研修か集合研修いずれかの形で、来年度も愛媛県相談員の質向上を目標に研修会の開催を継続していく。

また、四国各4県でのQA研修は今回の開催で一巡し終了した。今回の経験を活かし、今後もQA研修の継続開催、または、他のテーマでの研修会を四国4県共同のWEB研修会についても検討していきたい。

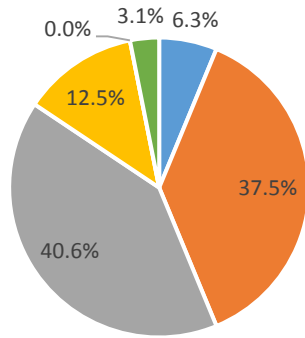
愛媛県 「相談対応の質保証を学ぶ」研修 参加者アンケート結果
 2020年11月14日開催（回答者：32名）

I. ご自身について

◆年齢

	回答数
20歳代	2
30歳代	12
40歳代	13
50歳代	4
60歳以上	0
無回答	1
合計	32

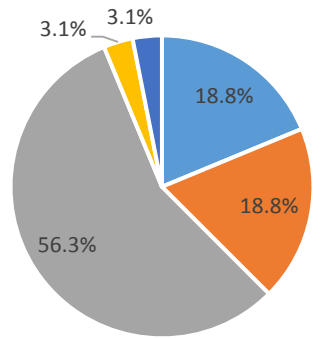
■ 20歳代 ■ 30歳代
 ■ 40歳代 ■ 50歳代
 ■ 60歳以上 ■ 無回答



◆病院の種類

	回答数
がん専門病院	6
大学病院	6
総合病院	18
その他	1
無回答	1
合計	32

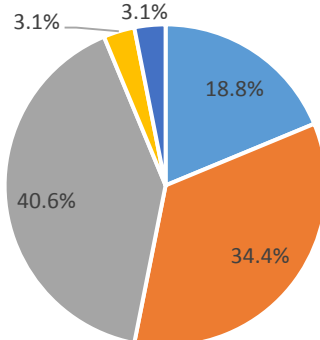
■ がん専門病院 ■ 大学病院
 ■ 総合病院 ■ その他
 ■ 無回答



◆がん相談従事形態

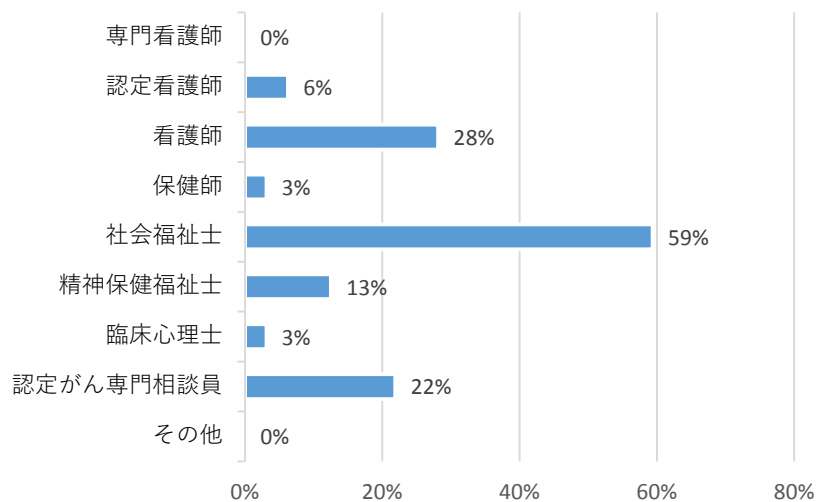
	回答数
専従	6
専任	11
兼任	13
その他	1
無回答	1
合計	32

■ 専従 ■ 専任 ■ 兼任
 ■ その他 ■ 無回答



◆主となる資格（複数回答可）

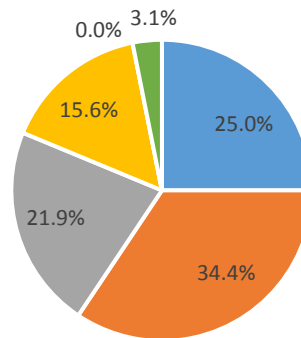
	回答数
専門看護師	0
認定看護師	2
看護師	9
保健師	1
社会福祉士	19
精神保健福祉士	4
臨床心理士	1
認定がん専門相談員	7
その他	0
合計	43



◆がん相談経験

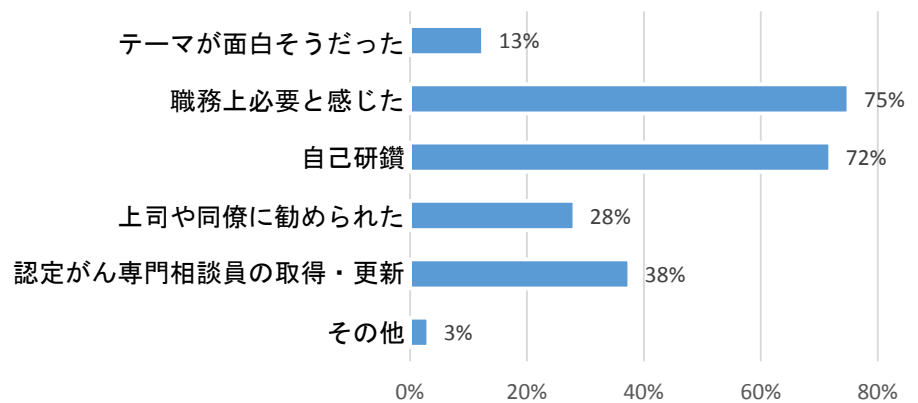
	回答数
3年未満	8
3年以上5年未満	11
5年以上10年未満	7
10年以上20年未満	5
20年以上	0
無回答	1
合計	32

- 3年未満
- 3年以上5年未満
- 5年以上10年未満
- 10年以上20年未満
- 20年以上
- 無回答



◆研修への参加理由(複数回答可)

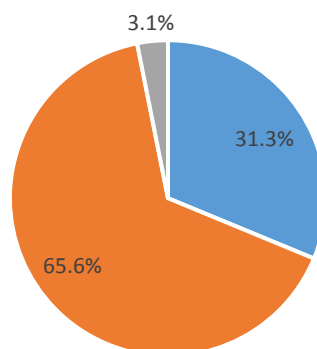
	回答数
テーマが面白そうだった	4
職務上必要と感じた	24
自己研鑽	23
上司や同僚に勧められた	9
認定がん専門相談員の認定取得・更新のため	12
その他	1
合計	73



◆評価表を用いた「相談対応の質保証を学ぶ」研修の参加経験

	回答数
参加したことがある	10
参加したことがない	21
無回答	1
合計	32

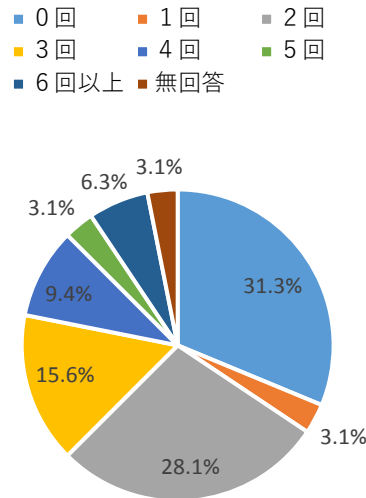
- 参加したことがある
- 参加したことがない
- 無回答



Ⅱ. これまでのオンライン研修や会議(仕事・プライベート含む)への参加経験について

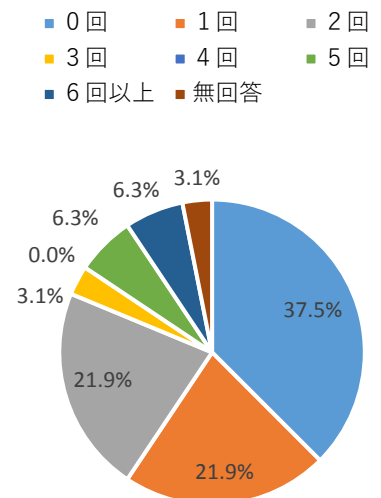
オンライン研修への参加経験

	回答数
0回	10
1回	1
2回	9
3回	5
4回	3
5回	1
6回以上	2
無回答	1
合計	32



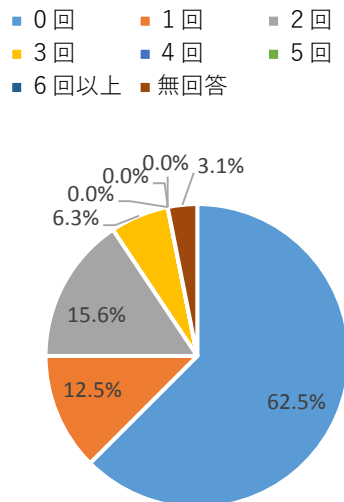
オンライン会議への参加経験

	回答数
0回	12
1回	7
2回	7
3回	1
4回	0
5回	2
6回以上	2
無回答	1
合計	32



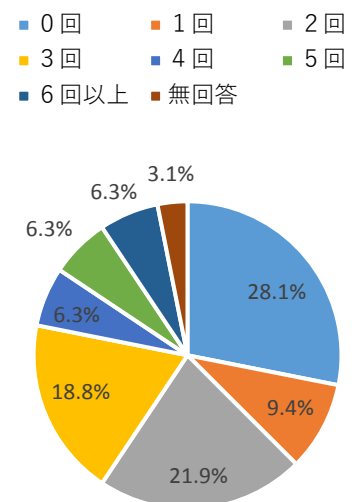
オンライングループワークの経験

	回答数
0回	20
1回	4
2回	5
3回	2
4回	0
5回	0
6回以上	0
無回答	1
合計	32



Zoom利用経験

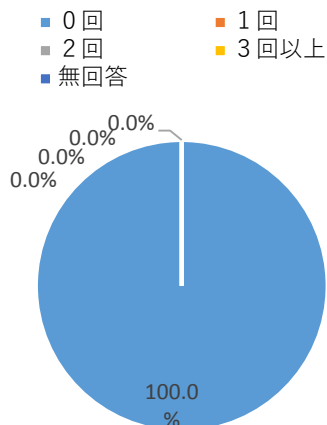
	回答数
0回	9
1回	3
2回	7
3回	6
4回	2
5回	2
6回以上	2
無回答	1
合計	32



※Zoom利用経験のある22名を対象としています。

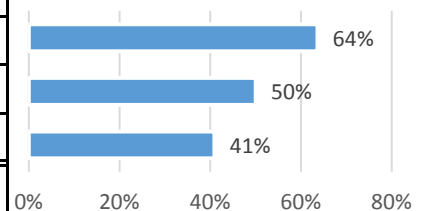
Zoomでのホストの経験

	回答数
0回	22
1回	0
2回	0
3回以上	0
無回答	0
合計	22



Zoom諸機能の利用(複数回答可)

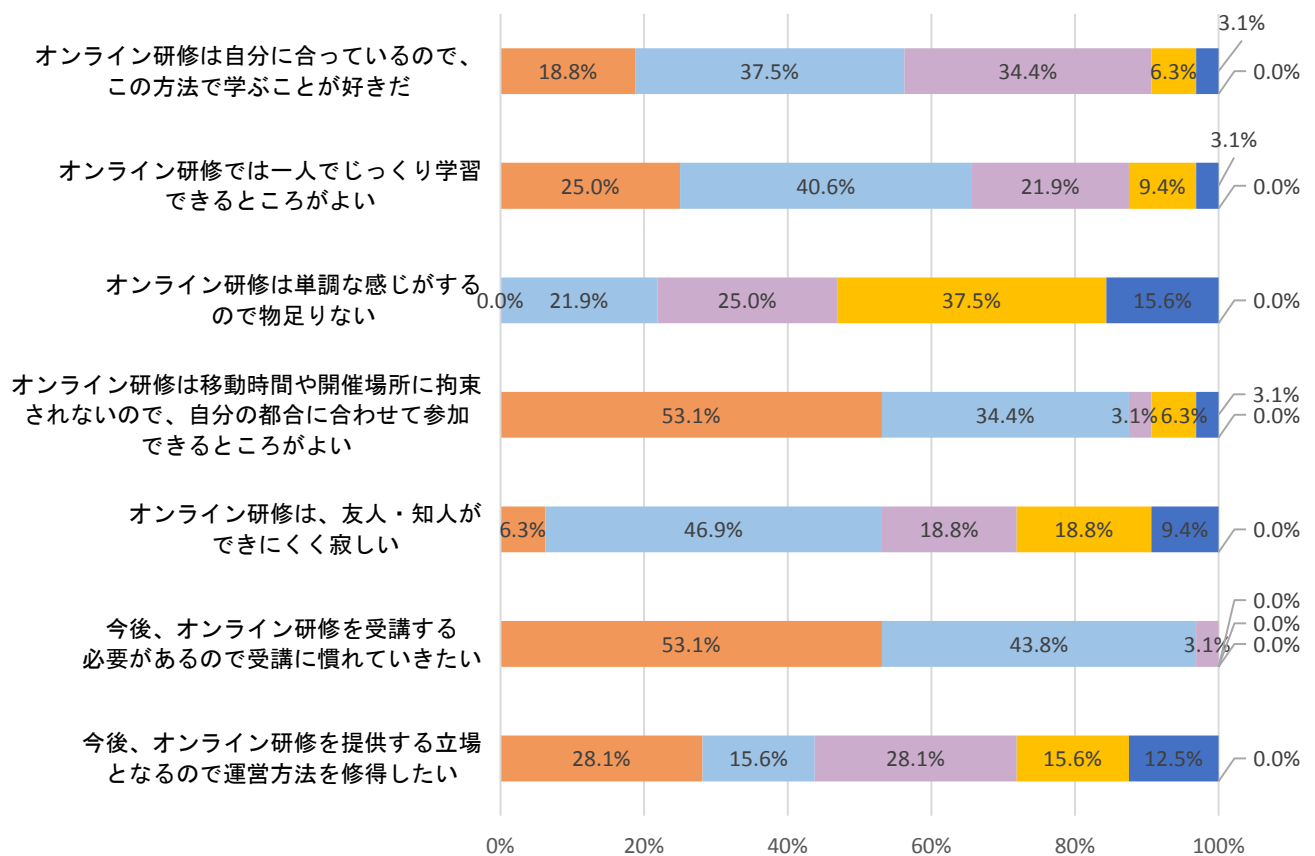
	回答数
チャット機能	14
挙手機能	11
画面共有機能	9
合計	34



Ⅲ. オンライン研修全般について

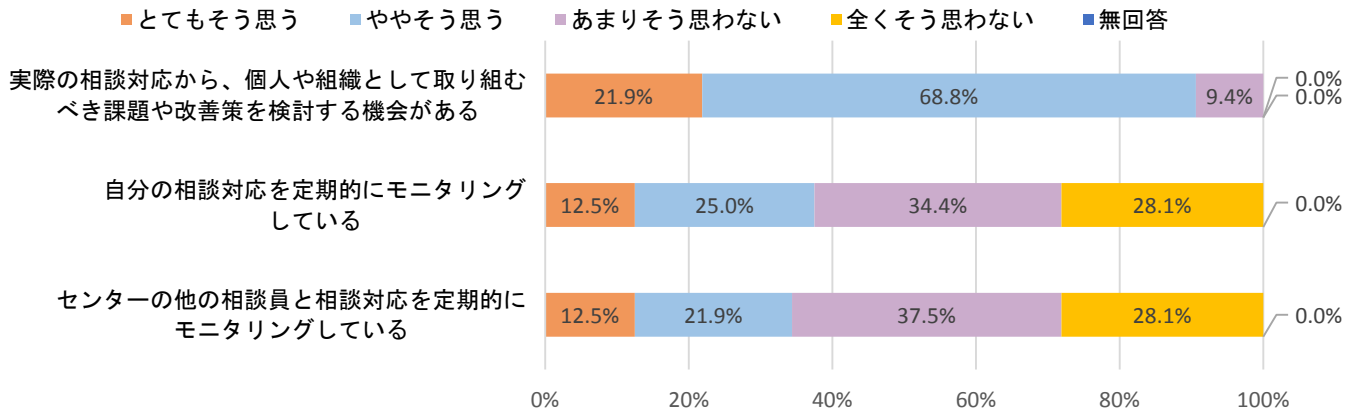
	とても そう 思う	やや そう 思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	全く そう思 わない	無回答	合計
1) オンライン研修は自分に合っているので、この方法で学ぶことが好きだ	6	12	11	2	1	0	32
2) オンライン研修では一人でじっくり学習できるところがよい	8	13	7	3	1	0	32
3) オンライン研修は単調な感じがするので物足りない	0	7	8	12	5	0	32
4) オンライン研修は移動時間や開催場所に拘束されないので、自分の都合に合わせて参加できるところがよい	17	11	1	2	1	0	32
5) オンライン研修は、友人・知人ができにくく寂しい	2	15	6	6	3	0	32
6) 今後、オンライン研修を受講する必要があるので受講に慣れていきたい	17	14	1	0	0	0	32
7) 今後、オンライン研修を提供する立場となるので運営方法を修得したい	9	5	9	5	4	0	32

■とてもそう思う ■ややそう思う ■どちらともいえない ■あまりそう思わない ■全くそう思わない ■無回答



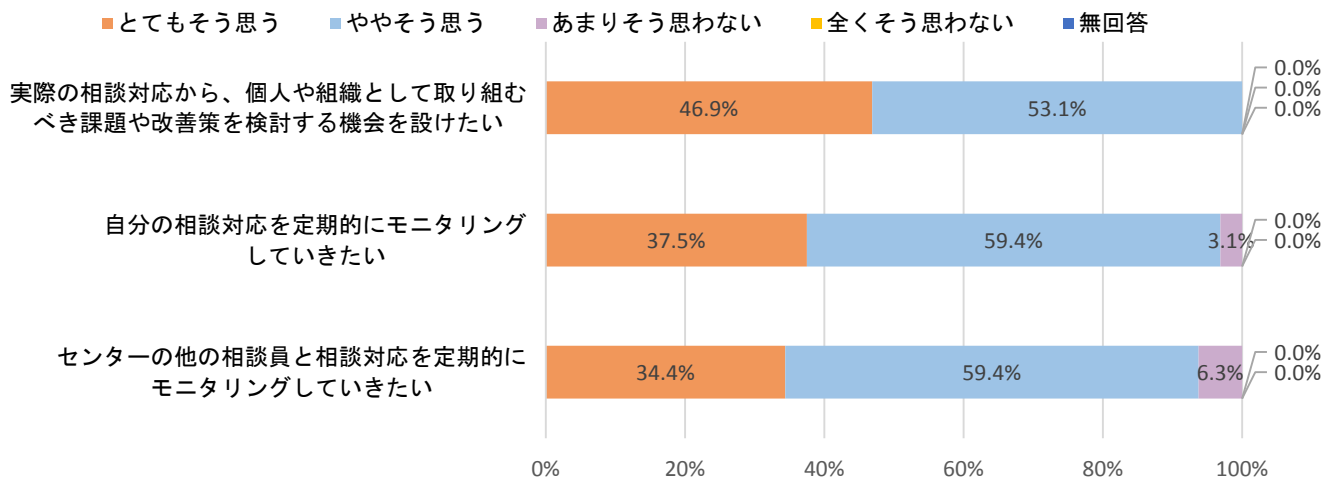
IV. 現在のご所属の相談支援センターにおける質保証の取り組みについて

	とても そう思う	やや そう思う	あまり そう 思わない	全く そう 思わない	無回答	合計
実際の相談対応から、個人や組織として取り組むべき課題や改善策を検討する機会がある	7	22	3	0	0	32
自分の相談対応を定期的にモニタリングしている	4	8	11	9	0	32
センターの他の相談員と相談対応を定期的にモニタリングしている	4	7	12	9	0	32



V. 今後の相談支援センターでの質保証の取り組みについて

	とても そう思う	やや そう思う	あまり そう 思わない	全く そう 思わない	無回答	合計
実際の相談対応から、個人や組織として取り組むべき課題や改善策を検討する機会を設けたい	15	17	0	0	0	32
自分の相談対応を定期的にモニタリングしていきたい	12	19	1	0	0	32
センターの他の相談員と相談対応を定期的にモニタリングしていきたい	11	19	2	0	0	32



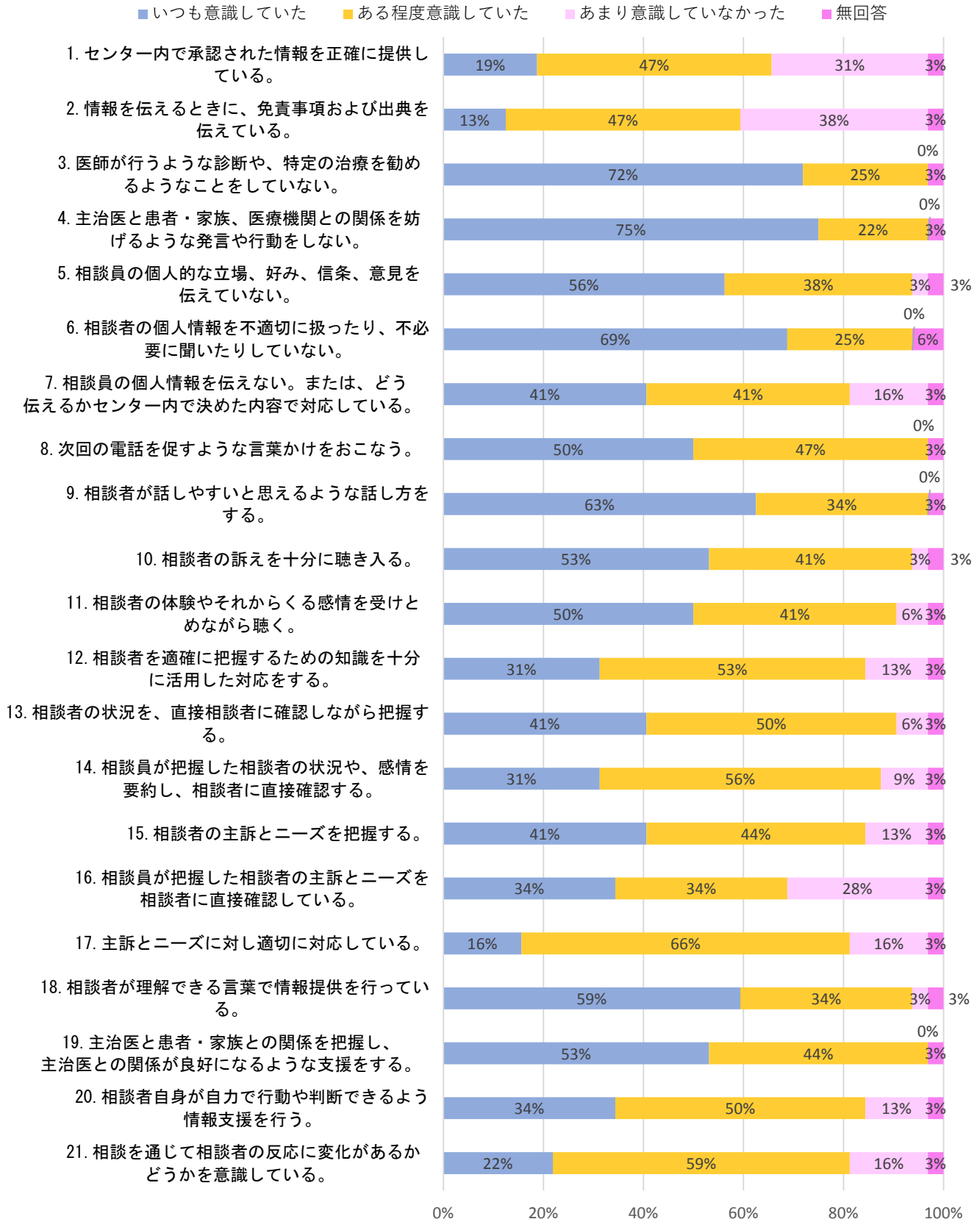
VI. 本日の研修の中で、「よく分かった」「印象に残った」と感じた点

- 1) ファシリテーターの進行がわかりやすくスムーズで、初めてのZOOM研修でしたが、とても有意義な時間となりました。
- 2) 内規が大切だということ
- 3) モニタリングによる得られる気付きが大きいこと。録音機能がなくても定期的なミーティングなどで事例検討によるモニタリングをしているところもあり参考になりました。
- 4) 模擬事例だけでたくさんの意見があった
- 5) オンラインでのグループワークは初めてでしたが、自宅にしながら全国の方とお話ができオンラインならではの研修のメリット、質の良さを実感できました。久しぶりにQA研修を受けたことで、相談員としての業務、有るべき姿を再確認できました。意識付けが大切なので、日々、今日の研修を思い出していきます。
- 6) WEBでもグループワークが実施できることに驚きを感じた。
- 7) 自分は相談者についてしかとらえられていなかったが、ほかの研修生は家族との存在や関係性にも注目されていて、視野が広がった
- 8) 評価表を作成したが、グループワークを通して自分とは違う視点で意見交換できた。支援の質においてもPDCAサイクルを回していくことの必要性を再認識した。
- 9) 相談対応の質評価や必要性
- 10) 相談対応評価表の項目の意味を理解できた。良かったことも含めた振り返りにも活用できる。
- 11) 吐き出したいことを余さず吐き出すことができるように、かかわることの重要性を実感しました。
- 12) zoomでのグループワークが初めてだったのでとても緊張していましたが、ファシリテーターの方が優しくて一気に緊張がほぐれました。
- 13) 振り返りが大事、いろいろ視点があって勉強になりました。
- 14) 漠然とした不安をもつ患者の訴えや話したい気持ちに対してどこまで付き合えばいいのか、正解はないと先生がおっしゃられたことが印象に残りました。グループワークでニーズについての話し合いで、『一緒に不安を整理してほしい』という意見があり、漠然とした不安をアセスメントして戻していくことと、話したい気持ちを受け止めることの両方を相談員は認識して対応していくことも大事なことだと感じました。
- 15) 印象に残った事はやはり人が違えば感じ方、捉え方が違うということです。自分にはなかった捉え方や気付きを発見できるところが面白かったです。反面、相談対応の質の担保に関して考えると大きかったです。
- 16) 相談者の言葉を整理して、どう戻せるか感情や、現状の要約について、もっと意識的にできる様になりたいと感じました。
- 17) 日々の面談や電話面談など、自分が相談者にどのような声掛けをしているのか、振り返る必要があるため、日々の支援を振り返って積み重ねていくことが大切だと感じました。
- 18) 相談対応の質保証は、個人の問題ではなく、組織として取り組む必要性がある事についてよく理解できました
- 19) がん相談支援センターのめざすものが明確化され、相談対応の質保証のための取り組みについて知ることができました。
- 20) 評価表の書き方と評価表を用いて主訴からニーズの導き方

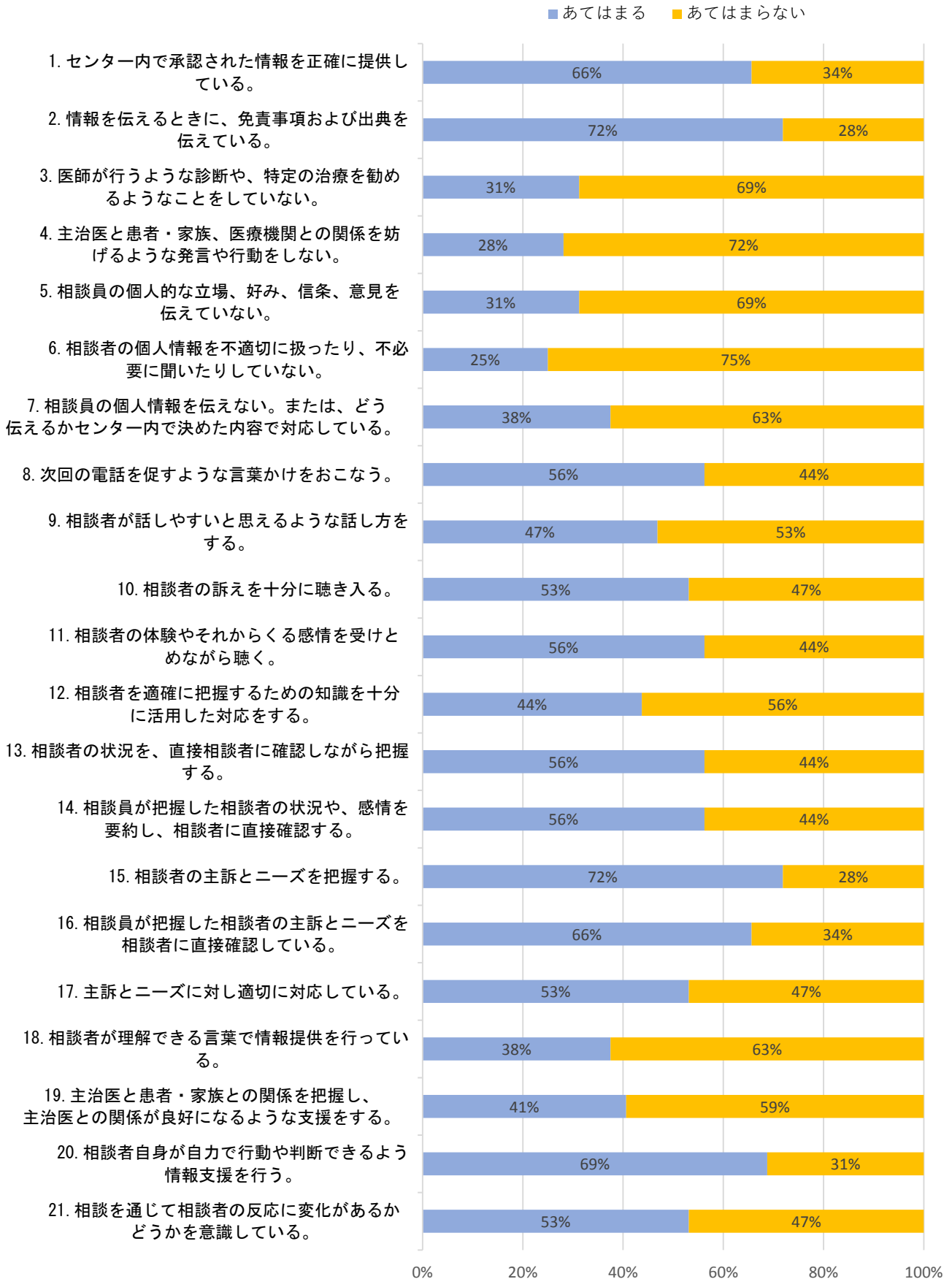
VII. 本日の研修の中で、「理解しにくかった」と感じた点

- 1) 質疑応答の時間がなかった
- 2) 事前課題の評価表をつけることが難しかった。
- 3) 1か0で評価するのが難しい
- 4) 特になかった。わかりやすかった。
- 5) 評価表のⅢ相談の総合評価の記入
- 6) 一般的な情報提供と、相談者個人に合わせた情報提供の考え方。
- 7) Core Valuesを初めて知ったので、振り返りが必要だと感じました。
- 8) 医療のことをどこまで話すのがいいのか難しさを感じた。
- 9) 免責に関して、相談者に、何をどれくらい伝えたらよいのか、今後も、施設規約を参考に、考えていきたい。
- 10) 特にありません。 2名

Ⅷ. これまで以下のことをどれくらい意識していたか



Ⅹ. 本日の研修を通じ、以下のことをどれくらい意識できるようになると思うか

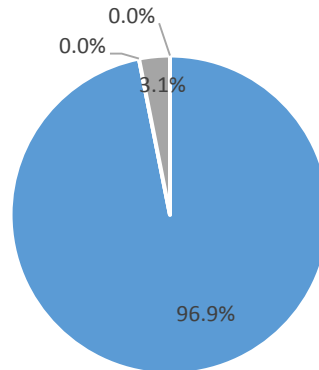


X. オンライン研修の満足度および今後同様のオンライン研修への参加希望などについて

今回のオンライン研修の満足度

	回答数
満足している	31
満足していない	0
どちらともいえない	1
無回答	0
合計	32

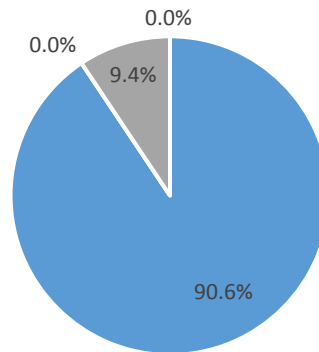
■ 満足している ■ 満足していない ■ どちらともいえない ■ 無回答



今後のオンライン研修への参加希望

	回答数
参加したい	29
参加したくない	0
どちらともいえない	3
無回答	0
合計	32

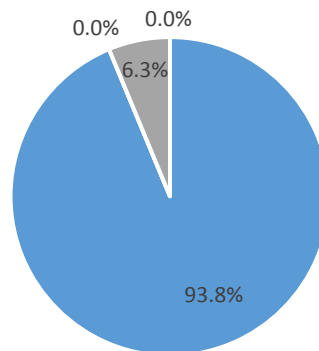
■ 参加したい ■ 参加したくない ■ どちらともいえない ■ 無回答



オンライン研修を人に勧めるか

	回答数
勧める	30
勧めない	0
どちらともいえない	2
無回答	0
合計	32

■ 勧める ■ 勧めない ■ どちらともいえない ■ 無回答



XI. その他、全体を通しての感想・ご意見

- 1) 準備から当日の運営までありがとうございました。初めてのZOOM研修でしたが、事前のメールや添付資料がわかりやすく、問題なく最後まで受講することができました。
- 2) 毎回相談記入シートの評価表の付け方がよくわからなかったのが今回大変勉強になりました。他の相談員とも共有して活用していきたいです。ありがとうございました。
- 3) すごく個人的な意見ですが、ずっと画面を見ているのですごく目が疲れて最後の方は画面を見るのが辛かったです。
- 4) 非常に参考になりました。ありがとうございました。
- 5) QA研修には今までに数回参加させていただいたことがありますが、そのたびに自身の対応の振り返りをしたいなと思いつつも、日々の業務でいっぱいになっています。グループワークのなかで、すでに取り組まれている病院の方はやはり第一歩は大変だったけど、始めてみてよかったとの感想を聞けたので、自分たちの病院でもできることから始めてみたいと思います。
- 6) 他県から参加させていただきありがとうございました。定期的なQA研修の参加が大切だと思いました。おつかれさまでした。
- 7) オンライン研修は、今までの研修と企画構成から変える必要があり大変だったと思います企画・運営して頂き、ありがとうございました参加してよかった、と思える研修内容でした
- 8) グループワークで全員の意見が聞けるように、また、話しやすい雰囲気を作ってください大変よかったです。(ありがとうございました)
- 9) オンラインでのグループワークを用いた研修への参加が初めてでしたので、不安な面もありましたが、事前に丁寧な操作ガイドやテストの案内、資料の添付をいただき、とても有意義な時間となりました。今回の研修を企画運営いただいた関係者の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。
- 10) お疲れさまでした。今回の気づきを大事にしたいと思いました。施設内の振り返りも大事にしたいと思います。
- 11) お忙しい中ありがとうございました。普段なかなかゆっくりと振り返りや意見交換の機会がないところもあり、自施設以外の他職種の方の話を聞いたり意見交換が出来て面白かったです。お疲れ様でした。
- 12) とても、楽しく研修受講できました。事務局の方、当日のファシリテーターさんのおかげです。ありがとうございました。
- 13) 数回受講する事で必要性や内容理解につながっている事を実感できます。継続できると助かります。
- 14) ありがとうございました 2名

2020/10/20

健康フェスタ2020 in 新居浜 企画書

1. 名称 『健康フェスタ2020 in 新居浜』
2. 開催日時 2021年3月14日(日) 10:00~15:00
3. 開催場所 新居浜市総合文化施設・美術館 あかがねミュージアム
新居浜市坂井町2丁目8-1 Tel 0897-31-0305
4. 参加費 無料
5. 企画内容 イベント表の通り
6. 共催 新居浜市、新居浜市教育委員会、愛媛県病院薬剤師会東予支部、愛媛県薬剤師会新居浜支部
7. 後援依頼 新居浜市医師会、愛媛新聞社、株式会社ハートネットワーク
8. 協力依頼 愛媛県がん診療連携協議会相談支援専門部会
9. 協賛依頼 セコム、株式会社サラヤ
10. 担当者 相談支援センター・和田 美恵子

イベント名	主な内容	時間(予定)
記念講演	テーマ：ダビンチ ・住友別子病院 泌尿器科 篠森健介先生	12:30~13:00
	・愛媛大学医学部附属病院副院長 消化管・腫瘍外科学教授 渡部 祐司先生	13:00~14:00
お薬情報 お薬相談	・講演	10:30~12:00
	・情報コーナー・お薬相談	10:00~15:00
ふれあい看護体験 救命救急体験 ※要予約	・中学、高校生を対象【定員20名】 医療の現場や救急隊と一緒に救命の現場にふれる体験型セミナー	10:00~12:00
こころと身体を健康に ～一緒に学んでみませんか?～	・認定看護師におけるミニレクチャー (乳がん、感染、疼痛、呼吸) ・こどもから大人まで気軽にできる 『にいほまげんき体操』をやってみよう!	10:15~14:45
出張がん相談	がん専門相談員によるがん相談	10:00~15:00
自分らしく あなたらしく	・住み慣れた地域で自分らしく過ごすために必要な「自分らしい選択」について情報提供 ・エンディングノートの配布と作成	10:00~15:00
健康づくり体験コーナー	・脳年齢測定 ・集団がん検診申し込み受付	10:00~15:00
芝生広場 de 物産展	・新居浜の物産販売 ・新居浜市内の飲食店によるキッチンカーで実証販売	10:00~15:00

2020年10月26日

愛媛県がん診療連携協議会 会長
独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 院長
谷水正人 殿

医療法人 住友別子病院
理事長 鈴木 誠祐



「健康フェスタ 2020 in 新居浜」参加のご協力について

謹啓

時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立ていただき厚く御礼申し上げます。

さて、この度 医療法人住友別子病院では、下記のとおり、「健康フェスタ 2020 in 新居浜」を新居浜市と共催で開催することになりました。つきましては、貴会がん相談支援専門部会の皆様に出張がん相談会へのご協力をお願いしたいと存じます。

ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、ご承諾下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

謹白

記

名称 : 健康フェスタ 2020 in 新居浜 ～出張がん相談会～
日時 : 2021年3月14日(日) 10:00～15:00
場所 : あかがねミュージアム (〒792-0812 愛媛県新居浜市坂井町2丁目8番1号)
旅費 : 支給なし
謝金 : 支給なし
参加者 : 愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会 がん相談員
連絡先 : 医療法人住友別子病院 〒792-8543 愛媛県新居浜市王子町3番1号
TEL : 0897-37-7133/FAX : 0897-37-7134
E-mail : mieko_wada@ni.sbh.gr.jp
担当 : 和田 美恵子

以上

愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会
令和2年度 がん相談支援センター活動のPDCA実施チェックリストに関する報告書

令和3年4月 日
がん相談支援専門部会
チェックリストWG

I. 目的

がん相談支援センター活動のPDCAサイクルを確保し、県内全体のがん相談支援の機能強化と質向上を目指す

II. 令和2年度の活動目標

1. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会で提案された内容や新整備指針の内容を踏まえて、項目見直しを行う。
2. 今年度に修正したチェックリストを用いて、各病院で評価する
3. 各拠点・推進病院で評価した内容をまとめ、県内の現状を把握と昨年度との比較から、課題を明らかにする

III. 活動内容

令和2年12月末	各施設でチェックリスト評価の実施 各施設で実施したチェックリスト実施結果を回収
令和3年2月	チェックリスト評価の集計および意見・感想のまとめ
令和3年3月	チェックリストWGで課題の抽出

IV. 結果と分析内容

1. 新規追加項目についての結果概要（詳細は資料参照）
 - 1-1-2 「診断初期の段階からがん相談支援センターの案内がなされるように体制を整備している」
拠点病院全施設、推進病院2施設では取り組むことができている。各施設で各診療科の医師や看護師との連携、パンフレットの配置等工夫しながら診断初期からの介入体制整備が進められている。
 - 1-2-2 「愛媛県がん相談員研修会に参加した」
拠点病院全施設、推進病院4施設では取り組むことができている。
研修受講状況は、推進病院も徐々に改善していたが、今年度は相談員研修が減り、推進病院の取り組みが減っている。
 - 1-2-3 「整備指針などでがん相談支援センターに求められる事項や業務に関する研修に参加している」
拠点病院全施設、推進病院4施設では取り組むことができている。

WEB研修を活用し、参加している。

1-2-6「がん相談支援センター内で検討された課題や解決策を必要に応じて病院管理者等に報告し、がん相談支援センターや病院全体としての質の向上につなげている」

拠点病院1施設、推進病院1施設では取り組むことができている。会議等を用い病院管理者への報告を行っている。

1-3-3「がん相談部門のマニュアルや相談対応のQ&A・センター内規をセンター内で作成し定期的に更新している」

拠点病院3施設、推進病院2施設ではマニュアルを作成し更新している。

1-3-4「相談対応した際の記録（音声データ等）とがん相談対応評価表等を用いて定期的（少なくとも1年おき）に相談対応のモニタリングを行っている」

拠点病院2施設では取り組まれている。QA研修に参加した施設では積極的に取り組まれている。

1-3-6「病院管理者やがん相談支援センターの管理者はがん相談支援センターの体制や業務状況等について外部から評価を受ける機会を設けている（認定がん相談支援センター・病院機能評価・他施設との相互評価など）」

拠点病院5施設、推進病院1施設では取り組むことができている。

2. 今後の課題

①チェックリスト項目の評価指標などの見直し

評価指標が曖昧で回答にばらつきがあった項目についての評価指標案

1-2-5「相談記録のデータ分析を行った」

【指標案】環境、対応内容や方法など、何らかの取り組みの評価・改善に役立てていれば、1（取り組んでいる）と評価して良い。

1-3-3「がん相談部門のマニュアルや相談対応のQ&A・センター内規をセンター内で作成し定期的に更新している」

【指標案】がん相談支援センター独自のマニュアルでなくとも、相談支援としてのマニュアルや相談対応のQ&A等ががん相談に活用できるものとなっていれば1（作成し定期的に確認・更新している）もしくは2（作成したが更新していない）の評価をしてよい。

1-3-6「病院管理者やがん相談支援センターの管理者はがん相談支援センターの体制や業務状況等について外部から評価を受ける機会を設けている（認定がん相談支援センター・病院機能評価・他施設との相互評価などを含む）」

【指標案】定期的、計画的に病院機能評価を受けている場合は1（外部評価の受ける機会があり、実臨床への還元サイクルを回す事ができる）もしくは2（外部評価を受ける機会があるものの運用上の課題が残る）の評価をしてよい

1-3-7「個人情報の取り扱いについてセンター内で定め、遵守した」

【指標案】院内や部署で作成された規定に沿って個人情報の取り扱いが遵守できていれば1（取り組んでいる）の評価をしてよい。

②チェックリストから見えたがん相談支援センターの活動の結果に対してどう取り組んでいくかを部会で意見交換行う。

V. 活動全体の評価および次年度の課題

1. 前年度の評価結果と新整備指針、および都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会での提案内容をもとにチェックリスト項目の修正・削除・追加を行い、前年度評価項目数 34 項目から 28 項目へ変更した。

2. 新チェックリストでの評価結果からは、評価指標が曖昧で回答にばらつきがみられる項目があり、ワーキングで評価指標案を作成した。指標案については次年度の部会で承認をとる予定。

3. 評価結果からは、コロナ禍の影響による相談支援センターの活動の支障が顕著な項目があった。（患者家族サロン・地域との連携強化など）今後、コロナ禍での相談支援センター活動のありかたについての検討を行う必要がある。

4. チェックリストの評価結果を基に、各施設共通の課題を共有し、今後の各施設が取り組む努力目標（方向性）について検討する場を設ける。

5. 次年度も各施設で年1回チェックリスト評価を行い、担当者に提出する。実施時期・提出方法や提出期限等についてはワーキンググループで検討し各病院へ連絡する。

愛媛県がん診療連携協議会 令和2年度第2回がん登録専門部会 議事録

日時：2020年11月13日（金） 13:30～15:00

開催方法：Web開催

進行：寺本（四国がんセンター） 議事録：済生会松山病院

1. 全国がん登録に関して 【愛媛県がん登録室：白岡】

●全国がん登録データ提出状況

- ・拠点病院は、すべての病院で提出確認済。
- ・推進病院は、未提出・未確認の病院があるので確認中。

提出後も各施設には突合等での内容確認をお願いするのでその際は協力願いたい。

- ・全国がん登録データ提出段階でチェックがかかるようになり、院内がん登録で提出できたデータが全国がん登録でエラーになることがある。

→ 国がんが修正する可能性があるが、警告・エラーはシステムに合わせて修正を。

●全国がん登録研修会の代替資料配布に関して

- ・コロナ禍で集合形式の研修会を断念し、代わりに登録の参考資料を作成・配布。

- ・全国がん登録届出表作成の手引き集

- ・全国がん登録QA（基本編）

愛媛県下の189施設に郵送し、アンケートで8割が参考になったとの回答を得た。

どんな資料が必要か等のアンケート結果は今後の研修会の参考にする。

2. 院内がん登録に関して

●5大がん登録研修会に関して 【四国がんセンター：西森】

- ・今年度内に、江森先生、塚田先生に依頼して研修会を開催することを決定。

- ・Web形式でそれぞれ別日で開催。

- ・江森先生は、来年2/6の午後に3時間程度で開催予定。

- ・ICD-O3.2を含めた2020年診断の症例登録の変更点や注意点

- ・初級認定者用のe-learningの押さえておくべき事項

- ・事前質問への回答。時間があれば当日の質問への回答など

- ・塚田先生は日程等これから調整。要望有れば11/20までに事務局へ。

●事務局からのお知らせ 【事務局：新居田】

- ・e-learning 供覧会の報告

供覧資料：国がん更新試験用 e-learning 教材を WebEx で放送

（これからのがん登録、ICD-O3.2、登録時の注意点 約2時間）

参加人数：9/3 3施設 約10名、9/10 2施設 3名、9/11 6施設 17名

意見交換：Hoscan、院内がん登録全国集計の提出時のエラーや注意した点を

共有したい。

→ 9/14 に ML へ四国がんセンターの大平さんより提供済。

反省点：回線が重く途切れてしまい供覧ができない講義があった。

今後は PC への負荷がかかりにくいネットワークを組んで開催する。

- ・今年度の試験報告の収集について
 - ・10/27 に収集フォーマットを ML で送付済。
 - ・更新、認定試験が終了後、施設でまとめて提出。
 - 受付期間：12/1（火）～12/11（金）
 - ・前回同様、moodle で共有予定。公開したら ML で周知する。
- ・施設プロフィールシートに関して
 - ・9月に収集した今年度のプロフィールシートを事前資料として配布。
 - ・来年度は年度初め（5月頃）に収集予定。
- ・その他
 - ・佐賀県主催のがん登録研修会が大変良かったので紹介
参加したい場合は、e-learning サイト下段の「がん登録セミナー情報提供システム」より各自で申し込む。
 - ・次回議事録は HITO 病院

●MOODLE の活用に関して

【四国がんセンター：山下】

- ・現在、53 人登録している。
- ・以下の2つのスレッドを作成。
 - ・「悩みごと共有 BOX（迷った症例は、とりあえず ここに）」
実務で迷った症例、確認したいことなどを共有する。
※この場で、必ずしも解答を求めるのではなく、研修会などの場所で改めて問題の整理や解答の作成を行いたい。
 - ・「提出作業について」
国がんへ問い合わせた事や、エラー・警告回避方法などを共有する。
- ・更新されたかどうかわからない件
 - 希望者には、登録時のメールアドレスに通知することは可能。

●今後の実務者育成に関して

【四国がんセンター：山下】

- ・研修会開催に対する課題として、
 - ・長期的な視野での人材育成が難しい、開催担当施設の企画運営の負担などがある。そこで、
長期的な視野も入れ、継続的に愛媛県がん登録実務者の育成を考えていくための WG を立ち上げたい。
- ・「がん登録専門部会 人材育成 WG（仮）」
 - ・長期的な視野も入れ継続的に愛媛県がん登録実務者の育成を考えていく。

- ・研修会、試験対策、情報共有、担当者間の交流等の課題を整理し、今後の方向性などを専門部会に提案。
- ・活動が仕事として認知していただけるよう役員会・幹事会に働きかける。
- ・WGに関する意見等
 - 【済生会松山病院】
初心者にとっては、試験対策などがあればありがたい。
 - 【住友別子病院】
がん登録だけでなく兼務業務もあるので企画の負担が大きかった。
サポートがあっただけだったので、サポート体制が充実すればよい。
 - 【愛媛大学医学部附属病院】
育成まで考えが及んでいない。WGで勉強会を開くのはありがたいので協力できることがあれば一緒に作っていききたい。
- ・まずは、来年度の専門部会の活動について計画を立てていきたい。
12月・1月あたりにWeb会議等で意見交換（予定）
メンバーを募集している。協力できる方は11月中を目途に連絡いただきたい。
名前も募集している。

3. がん登録データの集計・公表に関して

- 全国がん登録 2016・2017年診断の公表に関して 【県庁：清水】
 - ・2016・2017年診断は原案通り進めてよいとされ、決裁を待っている。
12月に県のHPに公表予定。
- 全国がん登録 2016・2017年診断の公表と施設別占有率に関して 【四国がんセンター：山下】
 - ・標準集計表に加え、愛媛県独自の集計表も公表予定。
 - ・施設別占有率（2か年合計）は一般公表せず、各施設と県にフィードバックする。
 - ・全国がん登録データを用いた集計は初めてのため、自施設の実情と乖離がないか各施設でデータ確認をお願いしたい。
- 冊子(がん登録でみる愛媛県のがん診療 2021)について
 - ・施設別集計（夏の専門部会のお知らせと変更なし） 【四国がんセンター：大平】
 - ・病期集計対象を「肝臓は肝細胞癌のみ」「肺は非小細胞癌のみ」に変更する。
 - ・検証用に印刷フォーマットを週明けに各担当者に送るので、関数や入力間違いのチェックをお願いしたい。
 - ・全県集計版 【四国がんセンター：山下】
 - ・作業が遅れている。
 - ・印刷フォーマット作成予定。
 - ・食道、子宮の新規集計。

- ・ 全県集計版は活用されているか意見を伺いたい。
 - ・ 作成にはマンパワーがかかっている為、活用方法等あれば提案してほしい。
 - ・ 活用されていないのであれば、使ってもらえるように院内でも広報できないか。
各臓器の先生は喜んでみているのではないか。(寺本)
愛大・県中・日赤の各専門の先生にサイトを紹介してみてもどうか。(寺本)
院内のがんの会議でサイトの紹介をした。(愛大 松下)

●院内がん登録データに基づく施設別占有率に関して 【四国がんセンター：山下】

- ・ 国がんから全国集計が公表された。
- ・ 2017年診断のカバー率も公表されたが、施設別ではなく県単位での公表となっている。
- ・ 今後施設別の占有率が出ることになると思われる。
→ 2016・2017の院内がん登録データで施設別の占有率を計算してみる。
公表はせず、各施設にフィードバックする。

●2016年診断以降の予後情報の提供・利用に関して 【四国がんセンター：寺本】

- ・ 20条問題
 - ・ 全国がん登録から返ってくる予後情報が院内がん登録に使えない。
 - ・ 全国がん登録由来のデータは、保存不可、外部への提供不可。
→ このままでは、利用は絶望的。
- ・ 愛媛県に関して
 - ・ 全国がん登録データを返す規定はあるが動けていない。
 - ・ データを提供できている都道府県もあるので、できるようにしてもらおう。

4. E-CIPの進行状況に関して(資料配布のみ) 【四国がんセンター：寺本】

●データ更新

- ・ 子宮頸がん公開
- ・ 院内がん登録データを2018年版に更新予定

●臓器充実

- ・ 膵臓：日赤からデータ受領。来春公開予定
- ・ 前立腺：愛大依頼済み

5. PDCAに関して(資料配布のみ) 【四国がんセンター：寺本】

- ・ 先日中間報告会があり、大腸癌の手術同意書についての意見交換等を行った。

6. 施設プロフィールシート(資料配布のみ) 【事務局：新居田】

- ・ 各施設で確認、活用いただきたい。
- ・ 改善点等があればご意見をいただきたい。

R3 年度 愛媛県がん登録専門部会 活動案説明会

日時：2021 年 4 月 20 日 13:30 ～ 15:00

場所：web 開催

【プログラム】

進行：四国がんセンター 山下夏美

1. はじめに（5分） 愛媛県がん診療連携協議会がん登録専門部会長 寺本典弘
2. 実務者へのメッセージ（10分） 愛媛県がん診療連携協議会会長 谷水正人
3. 「がん登録専門部会活動検討委員会」と今年度の活動案について（10分）
四国がんセンター 山下夏美
4. 受験者アンケートの結果からの情報共有（5分）
済生会今治病院 矢野幸子
5. グループ活動について（40分）
 - A. 研修会企画・運営グループ
四国がんセンター 西森京子
 - B. 学び方・教え方～私はこうしています～
済生会今治病院 矢野幸子
 - C. 日常業務悩み相談（他施設交流）グループ
市立宇和島病院 新城秀和
 - D. はじめての試験対策グループ
松山赤十字病院 田村純子
 - E. 勉強会グループ
四国がんセンター 山下夏美
 - F. 愛媛県の院内がん登録データ利活用グループ
四国がんセンター 大平由津子
6. 意見交換（15分）

がんサポートサイトえ ひめWG

令和3年4月

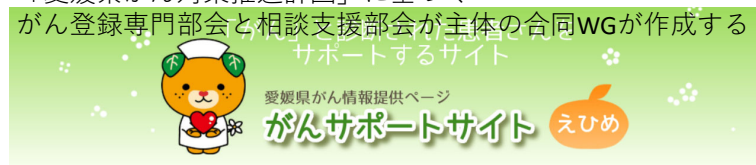
寺本典弘
がん登録専門部会
相談支援部会共同

1

1

『がんサポートサイト愛媛』概略

- 愛媛県がん診療連携協議会が愛媛県より受託したがん情報サイト
- 「愛媛県がん対策推進計画」に基づく
- がん登録専門部会と相談支援部会が主体の合同WGが作成するサポートするサイト



県より公式に受託しているが、『公式』を押すと作成が面倒になる

2

令和2年11月4日現在

• コンテンツ

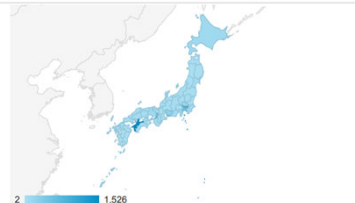
- がん患者のためのコロナ情報
- 癌腫別
 - 乳房・胃・大腸・肺・肝臓・子宮頸部・原発不明癌・AYA世代(15-39歳)の癌のがん
- トピック別 あなたを支える
 - 暮らしを支える・がん相談支援センター・セカンドオピニオン・治験・臨床試験案内・リンパ浮腫・将来こどもを望む方へ(妊孕性)・遺伝性腫瘍について・**いたみを和らげる**

New

New

• アクセス状況

- 11689 views /2020
- 4406 unique access /2020



3

今後

1. データ更新

- 2020年4月データ収集済み **順次更新**
- 2019年院内がん登録データ収集済み **順次更新**

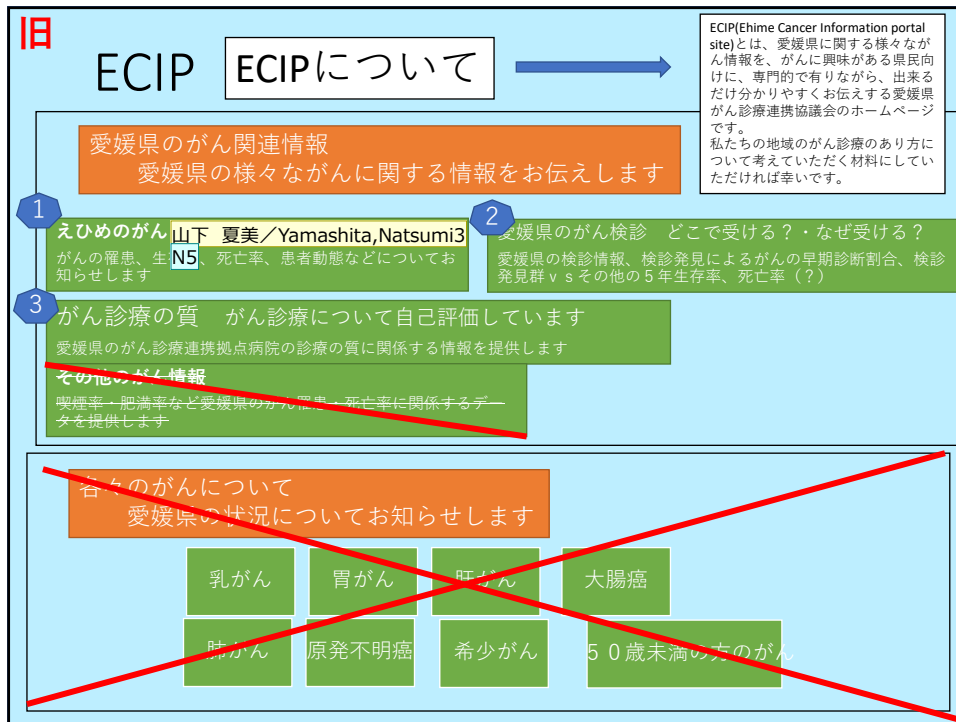
2. 充実 Upcoming

- 膵臓
 - 公開準備中、GW前予定
- 前立腺
 - 愛大・依頼済み、初回原稿GW明け予定
- **東予募集中!**
- 三日月のページ
 - 骨子の打ち合わせを行った

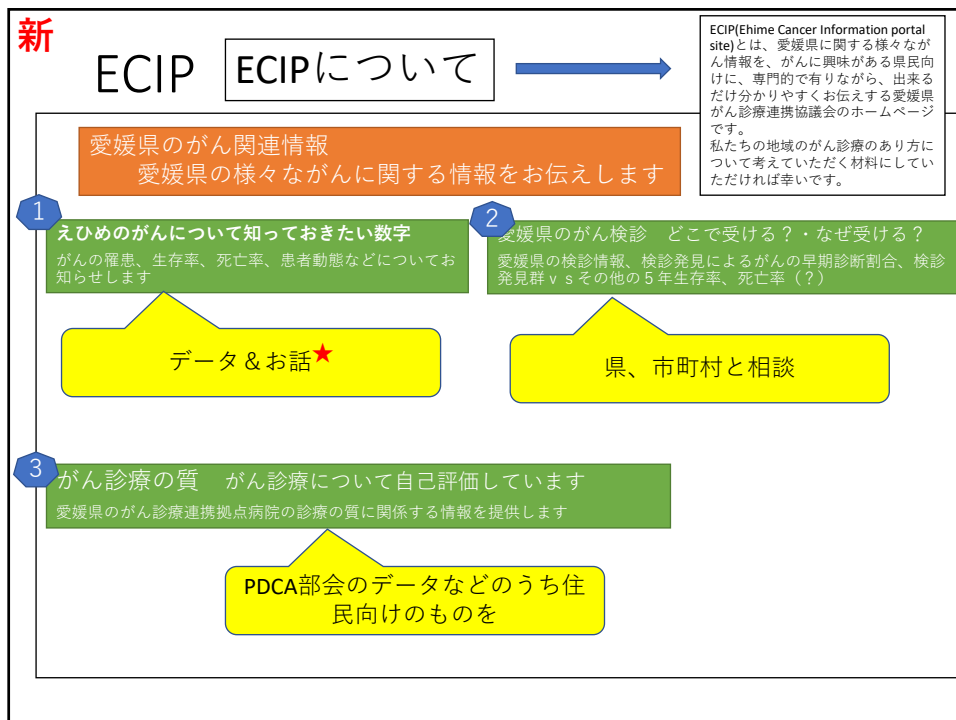
3. 内容検討 順次予定

- 病気を知る：臓器担当施設にお願いする予定
- あなたを支える：作成担当者をお願いする

4



5



6

スライド 5

山下 夏美/Yamashita,Natsumi3 住民向けか、どうかでも変わってくるかと思いますが、「がん登録」という言葉が、タイトルには、いらぬように思います。「罹患に関すること」「生存率に関すること」のように、がん登録から何がわかるかで、タイトルがあった方が良いと思います。利用者にとっては、「院内がん」と「全国がん」と「臓器がん」登録の違いが判らなくても良いと思いますので。タイトルに「がん登録」があると、まず、がん登録とは何？というところから始めないといけなくなる

山下 夏美/Yamashita,Natsumi, 2021/02/22

N5 なるほど

Nori, 2021/02/22

がん登録実務者のための5大がん登録講座 2020

The poster features a light green and orange color scheme. At the top right, there is a circular logo with the word 'Web' and a leaf icon. The main title is 'がん登録実務者のための5大がん登録講座2020 第1回'. Below the title, it says '主催：愛媛県がん診療連携協議会 がん登録専門部会'. A central text box explains that due to COVID-19, the event is being held online (Webex) instead of in person. It lists the date and time as '2021年2月6日(土)13時～16時20分', the target audience as '院内がん登録実務者、がん登録の実務に興味のある方', and the registration deadline as '2021年2月1日(月)'. It also mentions that the fee is free and the registration tool is Webex. At the bottom, it identifies the speaker as '講師 江森佳子先生 国立がん研究センター'. A red circular badge on the right side says '事前申込 必要 2021.2.1 締切'.

がん登録実務者のための5大がん登録講座

Web

がん登録実務者のための
5大がん登録講座2020 第1回

主催：愛媛県がん診療連携協議会 がん登録専門部会

例年秋に開催しておりました「がん登録実務者のための5大がん登録講座」
ですが、Covid-19感染拡大により本年度はオンライン（Webex）にて開催すること
になりました。

愛媛県内外・職種・専門を問わず全ての医療従事者の方を対象にしておりますので、
たくさんのご参加をお待ちしております。

日時：**2021年2月6日(土)13時～16時20分**

対象者：院内がん登録実務者、がん登録の実務に興味のある方

参加申込：**2021年2月1日(月)**までにお申し込みください。
※参加申し込み方法は別紙参照。各自でお申し込みください。

参加費：無料

視聴ツール：Webex（当院での視聴スペースはございません）

講師 **江森佳子先生** 国立がん研究センター

事前申込
必要
2021.2.1
締切

がん登録実務者のための5大がん登録講座2020を開催いたしましたのでご報告いたします。今年度はコロナ禍の中、研修会を開催できるかどうかというところから検討しておりましたが状況を見据えてWebなら開催できるのではと考えました。

国立がん研修センター がん対策情報センター がん登録センターの塚田庸一郎先生・江森佳子先生のご協力をあおいだところご快諾をいただき無事に開催することが出来ました。今回の研修は対面ではありませんでしたので、あまり長時間にならないようにするために

2回に分けての開催としました。第1回は125名の申し込みをいただきました。江森先生に講師をお願いし、前半は2020年診断症例登録の変更点・注意点についてICD-O-3.2も併せて講義していただきました。

後半ではがん登録実務初級者研修・認定事業の教材から、病期分類概論を中心に登録時の注意点もおりませながら講義していただきました。

下記アンケートにもありますように、好評でおおむねわかりやすかったとの回答をいただきました。

[がん登録実務者のための5大がん登録講座 2020](http://ecch.jp) « [愛媛県がん診療連携協議会 \(ecch.jp\)](http://ecch.jp)

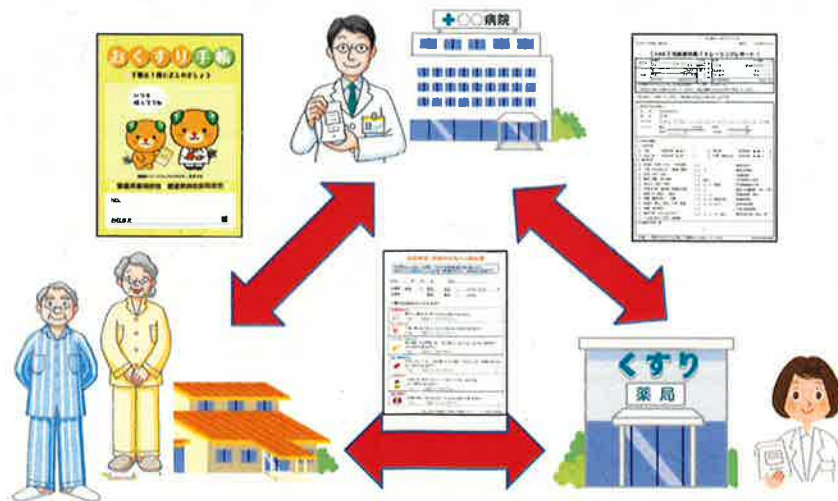
令和3年度第1回連携協議会幹事会
2021/4/22 on WEB

「がんの集学的治療専門部会」

1. 薬業連携 irAEマネージメントシステム構築 **継続**
アンケート調査「保険薬局を対象としたがん化学療法に関する現状・意識調査」 **論文化**
2. ゲノム情報を用いたスクリーニングシステム **継続**
3. HD曝露対策 **継続** HD protect®, 曝露検知器
CSTDによるコアリングの調査 **論文化**
4. 検討課題:放射線治療の紹介手順の簡素化、コロナ等災害時のケモ施設確保、
部会としてのPDCA活動の維持、がんサバイバーシップ保持活動の提案

1

地域で実践するirAEマネジメント



*松山日赤村上先生

2

アンケート


「保険薬局を対象としたがん化学療法に関する 現状・意識調査」

↓

解析中、論文化

3

GOZILAプロジェクト



Nationwide Genome Screening Project
SCRUM-Japan GI-SCREEN

- 大腸がん
- 大腸がん以外の消化器がん
- 消化器がん以外の固形がん

全固形がん

臓器縦断的なアプローチ

cIDNAM解析 (Guardant360)

- HER2 amplification → Trastuzumab + Pertuzumab (TRIUMPH)
- BRAF V600E MT → Eribulin (BRAVERY)
- BRAF non-V600E MT → Encorafenib + Binimetinib + Cetuximab (BIG BANG)
- MET amplification → Cabozantinib + Panitumumab (METBEIGE)
- RAS WT → Re-challenge with anti-EGFR mAb (PURSUIT)

臓器横断的アプローチ

cIDNAM解析 (Guardant360)

- HER2 amplification → DS-8201a (HERB)
- bTMB-High → Nivolumab (bTMB-H basket)
- Any FGFR alteration → TAS-120 (TIFFANY)
- HER2 amplification → DS-8201a (HERALD)
- ROS1 fusion → Brigatinib (Barossa)
- BRCA mutation → Niraparib (NIRB)

NEW!!

- 現在、大腸癌、およびがん腫問わず保険のパネル検査で変異がある症例を対象にリキッドバイオプシー研究 (GOZILA試験) に参加可能。
- SCRUM-Japan関連治験登録のスクリーニング検査としての位置づけ

4

SCRUM JAPAN 愛媛連携

- SCRUM JAPANの現状
がん遺伝子パネル検査（組織）の保険承認に伴い、
リキッドバイオプシー（血液）によるスクリーニングを開始
- 現在、大腸癌とがん腫問わず、保険のパネル検査で変異がある症例を対象にリキッドバイオプシー研究（GOZILA試験）に参加可能。
- FGFR遺伝子異常、HER2遺伝子異常、TMB-H、MET遺伝子異常の医師主導治験が進行中。リキッドバイオプシー（GOZILA試験）は治験のスクリーニング検査としての位置づけとなった。
- 連携プロトコールが中央事務局で承認済み。
四国がんセンターでのプロトコール愛媛連携プロトコール作成済
→連携していただける病院を打診中。

5

CSTDによるコアリング調査

- CSTD使用あり vs CSTD使用なし： 4.7% vs 0.1%
- 今後コアリングの際の異物の解析追加、データノイズの修正



論文化進行中

6

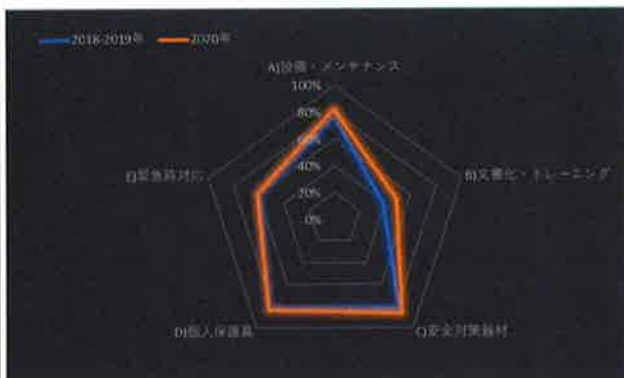
6

本部会のPDCAサイクル維持への取り組み

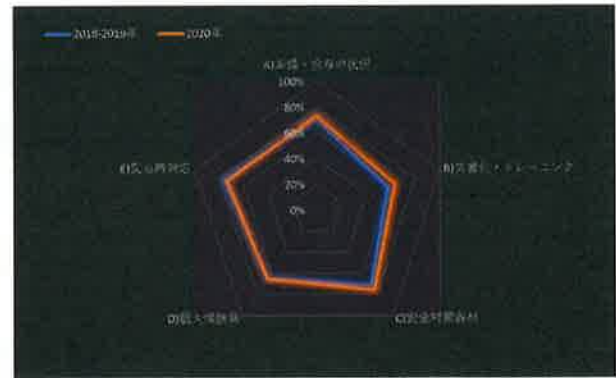
7

7

調製・投与ペンタゴン



調製



投与

8



1

がん看護専門部会活動報告

専門部会：年2回の定例会（令和2年9月29日・令和3年1月26日）

がん看護実践能力向上研修会

研修名	開催日	対象・募集人数	
がん看護実践能力向上研修会	R2.8.20-10.8	募集 14名	中止
フォローアップ研修	R2.11.12	R2年度受講者	中止
フォローアップ研修	R3.1.28	R2年度受講者、過去修了者	中止

トピックス研修

研修名	開催日	人数	
高齢者のがん治療と看護	未定	未定	中止
認知症を持つがん罹患者の意思決定支援	未定	未定	中止
Web研修 ターミナル期の口腔ケア -誤嚥性肺炎を予防するために-	R2.10.10	50名	
(共催)「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」の概要と臨床での活用	R2.10.2	284名	
(共催)ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育 プログラム	R3.2.21 2.23	ZOOMを用いた 講義とワーク 40名	

スポット研修
開催なし

2

令和3年度がん看護専門部会計画

専門部会 定例会

第1回目 2021.9.28 (火) 14:00~15:00 (WEB会議)

第2回目 2022.1.25 (火) 14:00~15:00 (WEB会議)

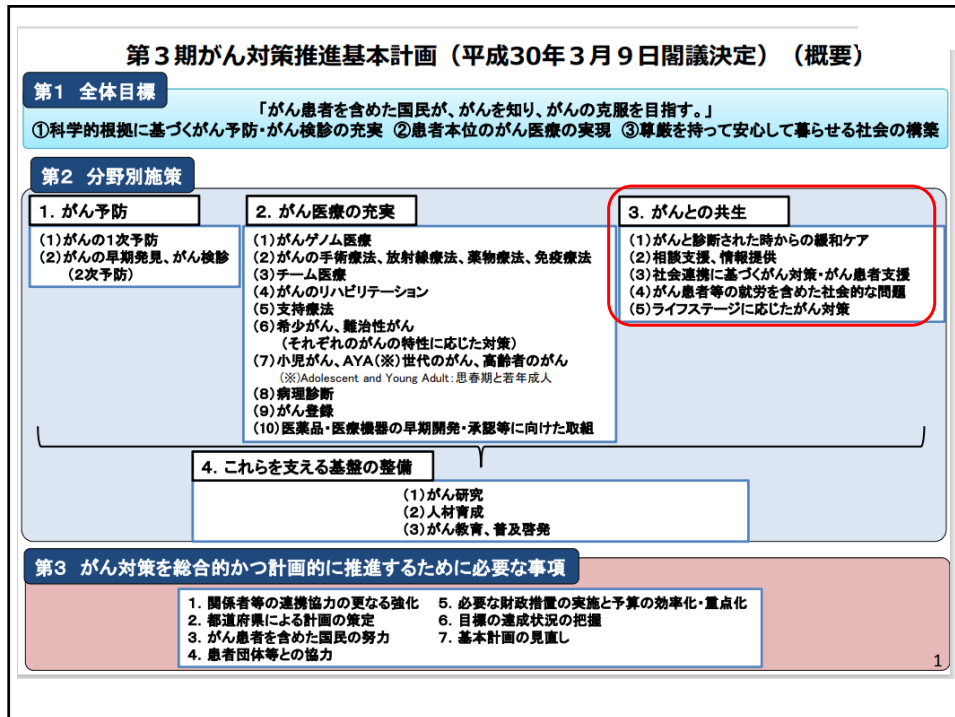
がん看護実践能力向上研修会 (WEB)

研修名	期間	対象・募集人数
がん看護実践能力向上研修会	5日程度	調整中
フォローアップ研修	未定	調整中

トピックス研修

研修依頼	開催月日	募集人数
がん患者の精神症状	調整中	未定
(共催) ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム	未定 (2日間)	30名程度

3



4

がん看護実践能力向上研修会の目的

≪目的≫ 県内のがん診療連携拠点病院等が協働し、県内のがん看護の実情を踏まえた上で、臨床実践能力の高い専門的な看護を提供する看護師の育成を図り、がん患者に対する看護ケアの充実を図ることを目的とする。

R2年度まで	今後
<ol style="list-style-type: none"> 1. がん治療に伴う主な副作用、合併症に対する適切な看護援助が実施できる。 2. がん告知や治療経過で体験する患者・家族の危機状態に応じた精神的支援ができる。 3. がんに伴う苦痛に対する適切なアセスメントと症状コントロールが実施できる。 4. がんとの共生を支えるためのがん患者教育が実施できる。 5. がん患者及び家族が円滑に療養の場を移行するための、情報提供や相談、連携や協働ができる。 6. がん患者及び家族に関わる倫理的ジレンマへの対処ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんやがんの治療に関する基礎知識を踏まえ、がんとともに生きる人の身体・心理・社会的な側面など多角的に支援できる。 2. 診断時からの緩和ケアの提供を行うことができる。 3. ライフステージに応じた支援を行うことができる。 4. エンド・オブ・ライフを見据えた支援を行うことができる。 <p>*1：基本計画 分野別施策 がん医療の充実部分の理解と実践への応用 *2-4：基本計画 分野別施策 がんとの共生の理解と実践への応用</p>

5

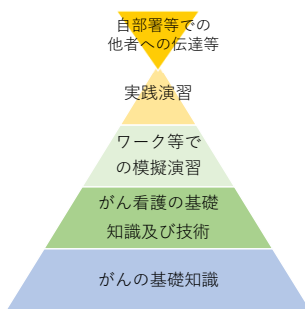
がん看護実践能力向上研修会の成果 および評価について

≪成果≫

- 受講者のがん看護実践に必要な基礎知識の向上
意欲・自信・実践の自己評価の向上
- 受講者のアセスメント能力の向上（事例検討）
- 受講者によるがん看護に関する取り組み
- 修了者の認定等資格取得者の増加

6

がん看護実践能力向上研修会の内容



≪R2年度研修≫

- 自己の課題の明確化と課題への取り組み
- 基礎知識：がんの治療を受ける患者の看護、AYA世代・高齢がん患者への対応、意思決定支援、コミュニケーション、在宅看護、ELNEC-J
- 応用：ローテーション実習、病棟実習
- 臨床での実践、事例発表会

21日間

≪R3年度研修≫

- 自己の課題の明確化と課題への取り組み
- 基礎知識：がんの治療を受ける患者の看護、AYA世代・高齢がん患者への対応、意思決定支援、ELNEC-J
- 事例検討
- 臨床での実践、事例発表会

5日間程度

(基本的にオンライン)
全項目修了で修了証発行

- 検討結果
1. 研修会の名称は、現研修名にWEBという言葉を入れる
 2. 5日間に変更して研修を継続し、日毎の参加も可能
 3. 自己の課題の明確化のワークや事例検討はファシリテーター（企画委員）にご協力をお願いします

第4回 AYA世代対応ネットワーク・ 妊孕性ネットワークセミナー 演題募集のご案内

2021/4/22 愛媛県がん診療連携協議会
令和3年度第1回幹事会資料
(資料13)

謹啓

時下、先生におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、第4回 AYA世代対応ネットワーク・妊孕性ネットワークセミナーは県内の取り組みの情報共有の場として、下記日程にて開催させていただき運びとなりました。今回、情報共有にあたり『AYA世代や妊孕性に関する施設・診療科の現状、施設の取り組み』をテーマに演題募集をさせていただきます。つきましては、先生方より貴施設における体制やシステムの取り組み、症例経験などのご提示を多数お寄せいただきたく、ここにお願い申し上げます。

謹白

2021年4月吉日

愛媛大学医学部附属病院 院長
杉山 隆
愛媛県がん診療連携協議会 会長
谷水 正人

日時：2021年8月20日(金) 19:00～20:30

会場：ANAクラウンプラザホテル松山

形式：会場およびWeb参加

プログラム：一般演題 3～4演題(予定)

募集要項

テーマ：『AYA世代や妊孕性に関する施設・診療科の現状』
『AYA世代や妊孕性に関する施設の取り組み』
『AYA世代や妊孕性に関する事例紹介(成功例、困難例等)』

- ① 申込方法：電子メールにて受け付けいたします。下記アドレスにお申し込みください。
- ② 申込み先：E-Mail：ohdeyus@chugai-pharm.co.jp(中外製薬株式会社 大出宛)
- ③ 申込締切：2021年6月30日(水曜日) 24時まで
- ④ 発表方法：Microsoft PowerPoint形式またはAdobe PDF形式(発表時間10分、質疑5分)
(Microsoft PowerPoint 2013互換 Adobe PDF 1.5互換)
- ⑤ 演題申込時に「演題名」、「演者名(共同演者含む)」、「施設名」をご提出ください。
- ⑥ 演題多数の場合は役割の先生方にて調整させていただきます。
ご講演いただけない場合がございますこと、ご了承ください。

共催会社：中外製薬株式会社からのお願い

業界自主規範等に基づき作成した社内規定を遵守した上で実施しております。
先生のご講演に際しましては、「医薬品医療機器等法」、「医薬品等適正広告基準」、「販売情報提供活動に関するガイドライン」等の関連法規に基づき、以下の点にご配慮賜りたく、お願い申し上げます。

- ・承認外使用の推奨とならないこと
 - ・他社および他社品を中傷・誹謗した内容とならないこと
 - ・原則、論文化されていないデータ(特に学会発表データ)を使用しないこと
 - ・著作権、肖像権等について必要な使用許諾が得られていること
- 発表資料を含めて事前に確認をさせていただき、場合によっては修正をお願いすることがございますことをあらかじめご了承ください。

共催：愛媛県がん診療連携協議会/中外製薬株式会社